

# 第2章 気仙沼市内各校のユネスコスクール取組事例

## ユネスコスクール実践テーマ一覧 小学校

No.	学校名	今年度の実践テーマ		主なESD領域	P
		◇実践の概要			
1	気仙沼小	気仙沼の水産業に視点を当てた地域の環境と生活	◇水産業に視点を当てた環境教育や食育と国際理解教育	環境 食育	国際理解 018
2	南気仙沼小	大川と鮭を素材にした環境保全活動	◇サケの飼育・放流や清掃活動など大川を素材とした環境教育	環境	020
3	九条小	地域の自然や人、社会に対する探究型学習活動の展開	◇神山川の生物調査や地域探検活動など地域の環境をテーマにした探究学習	環境	地域理解 022
4	鹿折小	自分と人やもの、社会、自然環境との関わりやつながりが分かり、よりよい関わりをつくろうとする児童の育成	◇留学生との交流活動による国際交流とASPネットワークを活用した国内ユネスコスクールとの交流	環境 ユネスコスクール	国際理解 024
5	浦島小	「知る」、「見つめる」、「生かす」ことを重視したESD学習のあり方	◇地域と連携した防災教育と環境教育	環境	防災 026
6	白山小	「ネイティブランドスクール」構想	◇地域と連携したふるさと教育とコラボスクール	環境	地域理解 028
7	松岩小	「共に生きていく社会」と「共に生きていく未来」について考えていく学習	◇共に生きる社会を考える環境教育、国際理解、福祉教育	環境 福祉	国際理解 029
8	水梨小	ふるさとを「知って、学んで、伝えよう」	◇羽田神楽や陶芸を素材にした地域文化理解教育	地域理解	032
9	新城小	ふるさと新城の自然を「知ろう・作ろう・育てよう」	◇大川の保護活動や農作物の栽培活動を通じた環境教育と地域理解教育	環境	地域理解 034
10	月立小	ふるさと八瀬を愛し、生き生きと学ぶ子どもの育成	◇ふるさとの伝統や産業、環境を守る地域遺産教育	環境	地域理解 036
11	落合小	自然豊かな落合小学校の栽培活動と環境保全活動	◇花や作物の栽培活動やエコ活動を通じた環境教育	環境	038
12	階上小	食を通して地域をみつめ、郷土の未来をえがく児童の育成	◇スローフード運動をテーマにした食育	環境 食育	040
13	大島小	大島の自然を生かした環境学習の推進	◇大島の自然環境を生かした環境教育	環境	042
14	面瀬小	人とつなぐ 自然とつなぐ 未来へとつなぐ自ら学び、自ら考える力をもった児童の育成をめざして	◇面瀬川流域の水環境をテーマにした環境教育	環境	044
15	唐桑小	唐桑の海の豊かさを実感しよう	◇地域と連携したカキ養殖体験活動をテーマにした海の環境教育	環境	046
16	中井小	ふるさとを見つめながら、豊かな国際感覚を養い、未来に生きる子どもを育てる	◇ALTや地域人材を活用したふるさと学習と国際理解・外国語活動	環境 地域理解	国際理解 048
17	小原木小	ふるさと「小原木」を体験しよう	◇ふるさと学習会を活用した環境学習	環境	051
18	津谷小	豊かな自然・恵まれた地域の環境を生かした「地域学習」の実践	◇ふるさとの自然、産業、食や人について学ぶ地域学習	環境 食育	地域理解 053
19	馬籠小	人・自然・地域に学ぶ馬籠っ子	◇学校林を活用した環境教育と幼稚園と連携した学習活動	環境	幼小連携 056
20	大谷小	生活科・総合的な学習の時間における表現力の育成	◇地域と連携した環境教育と福祉教育	環境	福祉 058

## ユネスコスクール実践テーマ一覧 中学校

No.	学校名	今年度の実践テーマ		主なESD領域	P
		◇実践の概要			
1	気仙沼中	環境教育「自然の豊かさを感じよう」	◇大島での体験学習を通じた環境教育	環境	060
2	鹿折中	自然環境の保全のために取り組むべきことを探る	◇テーマ別の講座を活用した環境教育	環境	062
3	松岩中	福祉の里づくり	◇地域と連携した福祉教育	福祉	064
4	階上中	私たちは未来の防災戦士	◇「自助」、「公助」、「共助」について3年間で学ぶ防災教育	防災	067
5	大島中	ホタテ養殖と関連させた環境教育	◇ホタテ養殖体験活動を中心とした海の環境教育	環境	069
6	条南中	国際社会の一員としてふさわしい人になろう	◇気仙沼から世界をみつめる国際理解教育	国際理解	071
7	面瀬中	持続可能な社会を担う生徒の育成	◇環境教育をふまえたコース別学習	環境	074
8	新月中	生き方を学ぶ	◇たたら製鉄体験や職場体験を通じた地域理解教育とキャリア教育	キャリア 地域理解	076
9	唐桑中	2050年 私たちのエネルギーについて考えよう	◇ふるさとを愛し、夢や志、プラスの気付きをもって学び、考えを発信していくエネルギー学習	環境 エネルギー	078
10	小原木中	食を通して地域を学び生きる力を高めよう	◇給食指導や生徒会活動を中心とした食教育	食育	080
11	大谷中	ふるさとと私	◇海岸の保全活動、調査活動やふゆみずたんぼを通じた環境教育	環境	082

## ユネスコスクール実践テーマ一覧 高校

No.	学校名	今年度の実践テーマ		主なESD領域	P
		◇実践の概要			
1	気仙沼高	環境教育・国際理解教育	◇オーストラリア短期滞在を中心とした環境教育と国際理解教育	環境 国際理解	084
2	気仙沼西高	環境教育・福祉教育	◇理科巡検や福祉施設交流を中心とした環境教育と福祉教育	環境 福祉	086

# 01 気仙沼小学校

主なESD領域 **環境** **国際理解** **食育**

## 気仙沼の水産業に視点を当てた地域の環境と生活 —食育と国際理解教育を関連づけて—

### 1 実践の概要・ねらい

総合的学習の時間において、世界的規模で課題となっている「環境」をテーマとして取り上げ、体験的・探究的活動を行うことにより、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。また、「国際理解教育」（外国語活動）および「食育」にも目を向け、体験的・表現的活動を通し、異文化の理解を深めながらコミュニケーション能力の素地を養うとともに、郷土の文化やよさをみつめる態度を育てる。

### 2 実践計画

#### ■ 三陸の海の生き物を調べよう I (3学年)

気仙沼湾や三陸沿岸の生物を調べる活動を通して、自分たちの生活と地域の自然環境の関係に関心をもちさせる。

#### ■ 三陸の海の生き物を調べよう II (4学年)

3学年のねらいをふまえ、自分たちの生活を見直し、環境保全のためにできそうなことを考え、実践しようとする力を育てる。

#### ■ 世界の海を見つめよう (5学年)

遠洋マグロ漁業の基地である気仙沼港や魚市場の見学や調べ学習を通して、世界の海の環境に気づかせる。

#### ■ 調べ、作り、食べる！スローフード気仙沼 (5学年)

地域食材をいかした料理を調べ、作る活動を通して、地域の産業や食文化について認識を深めさせる。

#### ■ オリジナル気仙沼弁当を作ろう (6学年)

地域の特産品や伝統料理調べや、地域食材や栄養バランスを考慮した献立作りなどの活動を通して、地域に伝わる料理を知るとともに、伝統の味を守ろうとする心情を高めさせる。

#### 実践の評価について

- ◎プリントや資料をもとに、学期末に3段階での到達度評価を実施。評価の観点は、「計画する力」、「追求する力」、「まとめる力」、「表現する力」、「実践する力」、「豊かな心」の6点とする。
- ◎日常の活動については、児童ひとりひとりの変容や課題を明確にして、次の活動にいかすために、「ポートフォリオ評価」を活用。
- ◎活動をまとめる段階での評価は、学習参観等の場を活用して「活動発表会」を実施。
- ◎児童、職員、保護者を対象に「環境に関するアンケート調査」を行い、児童の意識の変容の評価や、学習活動（プログラム）の改善を図る。

### 活動計画

#### ③学年 三陸の海の生き物を調べよう I (総合)

主な活動	課題作り／気仙沼湾や三陸沿岸の海の生き物調査（魚類、貝類、海藻類）／三陸の海の様子について考察／活動の振り返り（感想、発表、作文、英語表現等）	
教科等との関連	理科	「しぜんたんけんをしよう」 「植物をそだてよう」 「自然のかくし絵」
	国語	
	国際理解	

#### ④学年 三陸の海の生き物を調べよう II (総合)

主な活動	課題作り／海博士の講話／海の生物の観察・実験／三陸の海の環境について考察／活動の振り返り（感想、発表、作文、英語表現等）	
教科等との関連	理科	「暑くなる」と「すずしくなる」と
	社会	「くらしと土地の様子」
	国語	「ウミガメのはまを守る」
	国際理解	海藻標本作り

#### ⑤学年 世界の海を見つめよう (総合)

主な活動	課題作り／魚市場の見学・調査／森と海のつながりに関する講話／気仙沼の水産業について考察／活動の振り返り（感想、発表、作文、英語表現等）	
教科等との関連	社会	「わたしたちの生活と食料生産」
	国語	「森林のおくりもの」
	外国語活動	

#### ⑥学年 調べ、作り、食べる！スローフード気仙沼 (総合)

主な活動	課題作り／気仙沼の水産物を使った料理調べ／地域の伝統的な料理・新しい料理調べ／気仙沼市のスローフード運動について／地域食材をいかした料理作りとそのよさの考察／活動の振り返り（感想、発表、作文、英語表現等）	
教科等との関連	社会	「わたしたちの生活と食料生産」
	国語	「森林のおくりもの」
	外国語活動	

#### ⑥学年 オリジナル気仙沼弁当を作ろう (総合)

主な活動	課題作り／地域の農林水産物調べ／地域食材をいかした料理・伝統料理調べと調理／「気仙沼オリジナル弁当」の考案・調理・試食／地産地消について考察／活動の振り返り（感想、発表、作文、英語表現等）	
教科等との関連	家庭科	「楽しい食事を工夫しよう」
	外国語活動	

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

#### ■ 三陸の海の生き物を調べよう I (3学年)

##### 活動内容に「海の市見学」を追加

- 見学のなかで、気仙沼産の魚類の調査と働く人へのインタビューを行ったことは、三陸の海の生き物を一層理解することにつながった。



マグロの解体見学とインタビュー  
(3学年:三陸の海の生き物を調べよう I)

#### ■ 世界の海を見つめよう (5学年)

##### 活動内容に「マグロ新造船の見学」を追加

- 「つばき会」の協力により、気仙沼で造られたばかりのマグロ船内を見学し、船の設備や漁の仕方についての説明を受けた。
- マグロ新造船の見学を通して、児童は、遠洋へ出かける船の性能や環境に配慮した漁業などを理解し、船内の設備やその動きに驚き、新たな発見と課題作りに役立てることができた。



マグロ新造船の見学  
(5学年:世界の海を見つめよう)

#### ■ 調べ、作り、食べる！スローフード気仙沼 (5学年)

##### 活動内容に「バケツ稲作り」を追加

- 「南三陸農業協同組合気仙沼営農センター」の協力により、校地内でバケツ稲作りに取り組んだことは、米作りの大変さを実感し、田んぼに住む生き物について興味をもって調べることにつながった。
- バケツ稲作りの体験を通して、児童は、仕事のたいへんさと収穫する喜びを実感し、興味をもった調査活動につなげることができたとともに、環境と食育を関連づけた活動に取り組むことができた。



バケツ稲作り  
(5学年:調べ、作り、食べる！スローフード気仙沼)

#### ■ 「スローフード タウン&ライフ フェスティバル」に参加 (3~5学年)

- 「気仙沼スローフード タウン&ライフ フェスティバル2010秋」(11/13)に参加し、自分たちの実践を発表する機会を得たことで、児童は、発信し、伝えることの大切さに気づくことができた。

#### 実践の成果

- 地域の人々や体験活動を通して、児童は、地域のよさに気づき、環境に対する意識を高めることができた。
- 関係機関と密な連携を図る活動を展開することによって、児童は、学習の深まりと地域を大切にしようとする意識を高めることができた。
- 体験的活動を通して、児童は、自然の豊かさにあらためて気づくことができた。それとともに、自分たちとのかかわりを見直し、自分たちでできそうなことを考えることができた。
- 歴史的資料の調査活動を通して、児童は、自分たちの郷土についての関心を高めることができた。
- 先人達の努力や功績の調査を通して、児童は、自分の生き方を考えるきっかけになった。また、まとめる活動を通して、児童は、情報収集やそれを整理する力を向上させることができた。
- ESDを踏まえることで、教員の意識と取組が、更に主体的になった。

#### 次年度への課題

- イベントだけではなく、校内における発信を更に工夫すること。
- 実践的な活動に時間をかける傾向があり、探究的な活動をする時間を確保すること。
- 単元の実施時期を見直すこと。
- 歴史の学習と気仙沼の水産業を結びつける方法を検討すること。
- 教育課程の完全実施に向け、各学年70時間で展開する活動に見直し、総合的・系統的な視点から改善を図ること。



学校近くの海の生物観察  
(4学年:三陸の海の生き物を調べよう II)



魚市場見学での講話「漁法の話」  
(5学年:世界の海を見つめよう)



講師の支援を受けながら、オリジナル弁当の調理  
(6学年:オリジナル気仙沼弁当を作ろう)



完成したオリジナル弁当

# 02 南気仙沼小学校

主なESD領域 環境

## 大川と鮭を素材にした環境保全活動

### 1 実践の概要・ねらい

学校のすぐそばを流れる、身近な「大川」を素材に、地域の「環境保全活動」など、川と海のつながりを意識した体験重視の学習を通して、児童の環境に対する感受性と倫理を育てる。

### 2 実践計画

#### ■ 大川クリーン作戦 **全学年**

学区を流れる大川やその周辺の清掃活動を通して、自然に対する豊かな感性や自然を大切にすることを育む。さらに、川を守るために必要なことを考えたり、自分たちができることを実践したりする態度を育成し、ASPネットワークを通して他地域や世界に発信する。

#### ■ 鮭の飼育・放流活動 **2学年、5学年**

太平洋で育ち、3～4年で故郷の川に帰ってくる鮭を素材にし、稚魚の飼育・放流等の活動を通して、小さな命の大切さに気づき、自分たちの郷土の環境を大事にすることが、生命を守ることにつながっていることを理解して、生き物を大事にし、故郷を愛し保全しようとする態度を育てる。

#### 実践の評価について

- ◎大川およびその周辺を清掃する活動を通して、川をきれいにするのが、海の汚れを少なくしていることに気づいたかについて、児童の作文や言動により評価をする。
- ◎活動の意義を理解し、積極的に取り組んでいるかについて、児童一人一人について評価する。

「鮭の飼育・放流活動」活動計画		
<b>2学年 鮭の放流（生活科）</b>		
月	活動内容	
12	鮭の卵（5年生より提供）を家にもち帰り飼育	
1	卵の観察・給餌	
2	大川へ稚魚の放流 放流した鮭の稚魚が、5～6年生の時に戻ることを知る	
<b>5学年 鮭の飼育（総合）</b>		
月	単元	活動内容
10	「調べよう 鮭のこと」	鮭が遡上する大川の様子を観察
11		鮭の捕獲・授精作業の見学／鮭の飼育方法について（気仙沼鮭漁業生産組合）／受精卵を学校の水槽で飼育
12	「鮭を育ててみよう」	卵の世話／ふ化まで継続観察／2年生へ卵の提供
1		稚魚の観察・給餌
2		



大川のごみ拾い(全学年:大川クリーン作戦)

### 3 今年度の実践

#### 実践の成果

#### ■ 大川クリーン作戦 **全学年**

- 縦割り班の活動として取り組んだことで、学校周辺のごみが年々少なくなってきたことに気づき、これからも自然環境を大切にしていこうとする態度が育った。

#### ■ 鮭の飼育・放流活動 **2学年、5学年**

- 鮭の漁獲の様子を見学することで、鮭を守り育てる人々の努力と大川の水質等、環境を保全していくことの大切さに気づくことができた。
- 鮭の人工授精の様子を見学するとともに、気仙沼鮭漁業生産組合の方の話を聞くことで、生命の神秘に触れることができ、受精卵やその後ふ化した稚魚を大切に育てていこうとする意欲が高まった。
- 鮭の受精卵の変化を継続して観察するとともに、稚魚がふ化した際の水質等の変化を観察することで、教科書や図鑑等を読むことでは得られない貴重な体験ができ、鮭の飼育に対する意欲が更に高まった。
- 現在ふ化している約1,000尾の鮭の稚魚を放流すると、約40尾の鮭が大川に戻って来ることが期待でき、児童も職員も、この取組を継続していくことを強く願っている。



人工授精の様子(5学年:鮭の飼育)

#### 次年度への課題

- 今年度、「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」の助成で大型の水槽を購入した。更に充実した設備により、数多くの鮭の稚魚を飼育し、大川に放流したい。



公園のごみ拾い(全学年:大川クリーン作戦)



鮭の稚魚



鮭の捕獲(5学年:鮭の飼育)

# 03 九条小学校

主なESD領域 **環境** 地域理解

## 地域の自然や人、社会に対する探究型学習活動の展開

### 1 実践の概要・ねらい

自分たちの住んでいる地域の自然や人、社会に興味をもち、自らを取り巻く環境の中から課題を見つけ、主体的に学び、考えようとする「探究型の学習活動」を展開する。

### 2 実践計画

#### ■ 野菜を育てよう (低学年)

学童農園などを活用し、実際に野菜を育てることで自分たちの食生活と結びつけて考えさせ、栽培活動の大変さや自然環境の大切さに気づかせる。また、収穫祭(フェスティバル)を行うことで、野菜の収穫を喜びとともに、栽培活動に対する新たな思いや、食に対する興味をもたせる。

#### ■ 九条のひみつを知ろう (3学年)

地域の施設・設備、仕事、環境などを調べる活動を通して、地域のよさに気づかせ、自分たちの住む地域に興味をもたせる。

#### ■ 神山川を守ろう (4学年)

神山川にすむ生物の調査を通して、生物同士のつながりや自分たちの生活と身近な環境との関わり気づき、環境を守ろうとする実践的な態度を育てる。

#### ■ 気仙沼の恵みを知ろう (5学年)

気仙沼の食材調べをすることで、地域の農産物や海産物に興味をもち、自然環境や産業などについて理解を深める。

#### ■ 再発見!気仙沼 (6学年)

修学旅行の自主研修で調べた他の地域(会津若松)との比較によって、気仙沼の魅力を再認識させ、自分の住む地域の環境を守ろうとする実践的な態度を育てる。

#### 実践の評価について

- ◎児童の「意欲・主体性」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」、「応用力」を評価。
- ◎活動の最後に、振り返りの時間を確保し、「これから自分にできること」などのような、ESDを意識した項目を設定。
- ◎児童の自己評価、相互評価、教師の観察による評価の実施。
- ◎活動の成果を国内他地域や海外のユネスコスクール等にインターネットで発信。

活動計画	
<b>(低学年) 野菜を育てよう (生活科)</b>	<b>活動内容</b> 1学年: サツマイモの栽培、2学年: 枝豆の栽培 野菜の種まき・苗植え(学童農園を管理する地域農家の協力) / 野菜の世話(地域農家の協力) / 成長の観察・記録 / 野菜の収穫 / 収穫祭(フェスティバル)
<b>(3学年) 九条のひみつを知ろう (総合)</b>	<b>活動内容</b> 地域探検(施設・設備、仕事、環境など) / 地域探検活動の報告会 / 課題作り / 課題解決のための活動計画作り・調べ学習 / 調査結果の発表会「九条探検のひみつ発表会」 / インターネットによる学習成果の発信
<b>(4学年) 神山川を守ろう (総合)</b>	<b>活動内容</b> 川での遊びや生物とのふれあい活動 / 川の生き物の生態に関する課題作り / 調査活動(飼育・観察・文献の活用) / 調査結果発表・展示 / 川を守るための活動を考え実践 / インターネットによる学習成果の発信
<b>(5学年) 気仙沼の恵みを知ろう (総合)</b>	<b>活動内容</b> 給食の献立調べ / 青果物流センター・魚市場見学 / 環境教育講座(宮教大連携センターの協力) / 気仙沼の環境について考察 / インターネットによる学習成果の発信
<b>(6学年) 再発見!気仙沼 (総合)</b>	<b>活動内容</b> 気仙沼と他地域との違い調べ(修学旅行の自主研修) / 自主研修のまとめ / 気仙沼のよさや特色に関する調べ学習 / 気仙沼の魅力を紹介するパンフレット作り / インターネットによる学習成果の発信

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

#### ■ 野菜を育てよう (2学年)

- 2学年の活動内容において「枝豆の栽培」の他に「ミニトマトの栽培」も追加。

#### ■ 神山川を守ろう (4学年)

- 「神山川にすむ生物の調査」の実践は、天候の影響で川へ1回しか行くことができなかったため、講師の先生方が捕獲し、学校へもってきていただいた魚を活用して、学習を進めた。

#### ■ 気仙沼の恵みを知ろう (5学年)

- 岩手県陸前高田市「海と貝のミュージアム」の協力による「ミュージアム講座」を実施。
- 市水産課・農林課主催の「親子料理教室」を追加。

#### 実践の成果

#### ■ 野菜を育てよう (低学年)

- 自分たちが実際に育てた野菜を収穫して食べるという経験により、栽培活動に対する新たな喜びにつながり、食に関する興味も深まった。

#### ■ 九条のひみつを知ろう (3学年)

- 地域を探検することで、自分たちの地域には公園が多いということに気づき、「みんなが使いやすい公園」について課題意識をもって考えることができた。
- 公園でのキャップハンディ体験がとても有効で、「みんなが住みよい町・使いやすい施設」という視点に気づくことができた。

#### ■ 神山川を守ろう (4学年)

- 神山川にすむ生物調査や魚の生態についての学習によって、今後も神山川に魚や生き物が生活するためには、自分たちにどんなことができるのか、具体的に考えることができた。

#### ■ 気仙沼の恵みを知ろう (5学年)

- 地域でとれる水産物や農産物について調べる学習を通して、気仙沼は自然環境を生かした産業が盛んであることを理解することができた。

#### ■ 再発見!気仙沼 (6学年)

- 自分たちの住む町「気仙沼」と「会津」を比較することで、気仙沼のよさを再確認することができた。

#### 次年度への課題

- 活動内容が気候に左右される学習があるので、余裕をもった計画を立て、実践していく必要がある。
- 総合的な学習を中心に、各教科においてもESDの視点を念頭に置いて指導できるように、教員への働きかけの場を設定する。
- 「インターネットによる学習の成果の発信」を充実させる。



学童農園を管理する地域農家の方に教えていただきながら、サツマイモ(上)や枝豆(下)を収穫。(低学年:野菜を育てよう)



NPO法人の方に、車いすや白杖の使い方を指導していただきながら、キャップハンディ体験を行った。(3学年:九条のひみつを知ろう)



青果市場見学の様子。気仙沼で生産される野菜が、予想より多いことに興味を示していた。(5学年:気仙沼の恵みを知ろう)



会津若松への修学旅行を通して学んだことを気仙沼と比較することで、気仙沼のよさを再確認することができた。(6学年:再発見!気仙沼)

# 04 ししおり 鹿折小学校

主なESD領域 環境 国際理解 ユネスコスクール

自分と人やもの、社会、自然環境との関わりやつながりが  
 分かり、よりよい関わりをつくらうとする児童の育成  
 —国際理解教育を中心とした指導を通して—

## 1 これまでの実践について

本校では、平成17年度に宮城県教育委員会より英語教育推進事業の指定を受けて以来、英語に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指して英語活動を行ってきた。

また、異なる習慣、伝統、文化に対する理解を深め、互いに助け合おうとする国際感覚を育てるために、宮城教育大学の留学生やACCU（ユネスコ・アジア文化センター）の事業で来日した教員や大学生を招いて交流活動を実施してきた。さらに、児童が伝えたいという思いをもち、高められるように、国際交流活動を年間指導計画に位置づけ、交流の内容を生活科や総合的な学習の時間、その他の教科と関連させてきた。

昨年度は、国際交流活動を通して外国や日本の文化について体験的に学んだり、学んだ英語を実際に使って外国人と関わったりできる活動を設定した。また、他の地域や人とのつながりも考えられるように、教科や総合的な学習の時間での取組をもとに、県内のユネスコスクールとの間接交流も実施した。

## 2 実践計画

今年度の重点活動として、国際理解活動の指導計画を改善しながら、次の活動を積極的に展開する。

### —国際交流活動—

#### ■ 宮城教育大学留学生との交流活動(宮城教育大学国際理解教育センターとの連携)

- 学年ごとに活動内容のテーマを設定し、留学生との交流活動を継続・発展させる。
- 各教科・領域との関連づけを図る。

#### ■ 地域に在住する外国人との交流

- 地域人材を積極的に活用し、外国人との交流する楽しさを味わいながら、出身国の伝統や文化、自然環境などを体験的に学べる活動を展開する。

#### ■ 国内のユネスコスクールとの交流

- ASPネットワークを積極的に活用し、国内の他の学校との交流を通してお互いの学びの共有や、伝え方を学び合ったりする。

### —外国の言葉の文化・英語に親しむ活動—

#### ■ これまでの活動内容の見直し

- 外国語活動の導入をふまえ、これまでの活動内容を見直しながら、4学年までに体験させる英語表現を吟味するとともに、学年ごとの関連についても見直しを行う。
- 1～4学年の「英語に親しむ活動」の見直し。
- 英語教材の精査。

### 実践の評価について

- ◎ 地域人材の活用。
- ◎ 国際理解教育の指導計画の改善・・・学年に応じた、「国際交流活動」と「英語に親しむ活動」のバランスの検討。

### 平成21年度の実践

#### 2学年 よその国のことばを知ろう

留学生といっしょに歌を歌う活動を通して、英語や中国語での数の言い方や数え方、表し方にふれた。また、日本と中国の「手遊びうた」を互いに教え合い、交流を深めた。

国際理解

#### 3学年 いろいろな国の宝物

中国出身の留学生と米国大学生物学教授と児童が、それぞれの「宝」について紹介し合った。留学生からは、写真を使って自国の文化遺産や伝統行事について紹介していただいた。米国教授からは、スライドを使って地球の宝として「珊瑚礁」についてお話をいただいた。交流後、児童は個人の「宝」から「鹿折の宝」に視野を広げ、地域の学習と関連づけながら意欲的に学習活動に取り組むことができた。

国際理解

#### 4学年 気仙沼の観光スポットを紹介しよう

総合的な学習の時間において、「気仙沼ポスターを作ろう」をテーマに、気仙沼のよさを水産業や食の面から探求してきた。そこで、児童は、留学生との交流活動において、気仙沼の産業や食、自然の豊かさなど「気仙沼のみどころ」を伝えた。留学生は、交流活動終了後、児童から紹介されたみどころの中からリアスシャーケミュージアムと、男山酒造を見学した。

国際理解

#### 6学年 みんなの願い・みんなのしあわせ

児童は、留学生や県内のユネスコスクールに対し、地域で高齢者や障がい者が配慮されていることや施設設備などについて調べたことを発表した。留学生からは、自国の様子について話をいただいた。留学生との交流活動によって、気仙沼と外国の福祉の制度や設備について、同じ点や異なる点について考え、国による社会的背景や文化の違いに気づくことができた。

仙台市中野小学校5年生からは、干潟に生息している生物について、気仙沼市立大島小学校6年生からは、島の環境について調べたことを発表していただき、お互いの学校での取組や地域について相互理解を深めることができた。

児童は、こうした交流活動を通して、他の国や地域の自然環境、文化の違いに気づくとともに、他の国や地域の人と積極的にかかわっていかうとする意欲を一層もつことができた。また、自分たちの学習活動を客観的にみるよい機会となり、その後の学習や探究活動への動機づけにつながった。

国際理解

ユネスコスクールとの交流

## 3 今年度の実践

### 実践の成果

#### ■ 宮城教育大学留学生との交流活動

- 宮城教育大学の留学生との継続した交流活動を通して、児童に外国人とのコミュニケーションに対する積極的な態度が一層身についてきた。
- 交流活動の際に相手の国の言葉で話してみたいという意欲が、5、6学年の外国語活動や1～4学年の外国の文化に親しむ活動に対する興味・関心を持続させ、積極的な学習活動を引き出した。

#### ■ 地域に在住する外国人との交流

- 地域に在住する外国人との交流は地域人材の準備が遅れ、実践できなかった。

#### ■ 国内のユネスコスクールとの交流

- 4学年において角田市立東根小学校と交流活動を行った。東根小学校との電子メールによる交流に取り組んだことによって、これまで以上に目的意識や相手意識をもって総合的な学習の時間の探究活動に取り組むことができた。
- また、活動の様子を掲示することによって、他の学年の児童も交流活動への興味・関心をもてるようになった。

#### ■ 外国の言葉の文化・英語に親しむ活動

- 総合的な学習の時間の指導計画を環境教育と国際理解教育を柱に見直した。
- これまでの英語に親しむ活動の内容を、触れ合いを通して外国の文化に親しむことに重点を置くように見直した。

#### ■ 全体について

- 5学年の米作り体験をユネスコスクール全国大会のお米プロジェクトで発表したことは、総合的な学習をESDの視点から見直すよい機会となった。
- また、本校にとってよりよい地域連携の在り方、環境教育と国際理解教育との関連のさせ方などが明らかになってきた。
- 教員のESDに対する理解が深まってきた。

### 次年度への課題

- 見直した総合的な学習の時間の指導計画の課題等について実践を通して明らかにする。
- 前年度試作したESDカレンダーを活用できるものに完成させる。特に、環境教育の縦のつながりを視覚化させる。
- 地域の公民館の「温故知新運動」との連携を継続・発展させる。
- 外国人との交流をより積極的にを行うため、地域人材の整備を行う。



宮城教育大学の留学生との交流(1学年)



米作り体験・餅つき(5学年)

# 05 浦島小学校

主なESD領域 **環境** **防災**

## 「知る」、「見つめる」、「生かす」ことを重視したESD学習のあり方

### 1 実践の重点テーマについて

「知る」・・・地域の特徴や現状、各国の特徴や現状、これまでの歴史等を理解する。  
 「見つめる」・・・体験活動等を通して学んだことを分かりやすく伝えることができるよう、工夫してまとめる。  
 「生かす」・・・これまでの自分と照らし合わせ、今後の生活にどう生かすかを考え、実践しようとする。

### 2 実践計画

#### ー地域の特性を生かしたプログラムー

- 津波避難訓練 **全学年**
- 浦島の養殖漁業について調べよう **中学年**
- 浦島の地震と津波を調べよう **中学年**

#### ー国際理解を中心としたプログラムー

- 国際交流活動 **全学年**
- 英語活動 **1～4学年**

#### ー児童会で取り組むプログラムー

- プルタブ・ペットボトルキャップの回収 **全学年**

#### 活動計画

全学年 津波避難訓練（特別活動）		
重点テーマ	知る	浦島での津波被害の歴史、津波の恐ろしさについて知る。
	見つめる	さまざまな状況における対応の仕方を、これまでの生活と照らし合わせて考える。
	生かす	登下校時における避難場所の確認、自然災害に対する準備等を実践する。
教科等との関連	総合	地域理解 防災教育

中学年 浦島の地震と津波を調べよう（総合）		
重点テーマ	知る	浦島での津波被害の歴史、津波の恐ろしさ、避難場所について知る。
	見つめる	課題を「調べる」、「まとめる」、「発表する」活動を通して、津波について理解を深めるとともに、万が一の時の対応について考える。
	生かす	登下校時における避難場所の確認、自然災害に対する準備等を実践する。
教科等との関連	特別活動	地域理解 防災教育

中学年 浦島の養殖漁業について調べよう（総合）		
重点テーマ	知る	浦島地区での養殖の現状（ワカメ・コンブが盛んなど）を理解する。
	見つめる	ワカメの養殖がどのように行われているのかを見学や体験を通して学び、地域の特性や生産の工夫や苦労等についてまとめる。
	生かす	調べて分かったこと・体験を通して感じたことについて、環境との関連から今後の生活にどのように生かすかをまとめ、発表する。
教科等との関連	国語 社会 理科	地域理解 環境

全学年 国際交流活動（1、2学年：創意、4～6学年：総合）		
重点テーマ	知る	他国の言語や文化を体験的に理解する。
	見つめる	自分の思いや知りたいことなどを、外国語の音声や基本的な表現を用いて伝える。
	生かす	「相手の思いを理解しようとする」、「自分の思いを伝えて伝えようとする」など、積極的にコミュニケーションを図る。
教科等との関連	国語 外国語活動 国際理解	コミュニケーション能力

1～4学年 英語活動（創意）		
重点テーマ	知る	他国の言語や文化について体験的に理解する。
	見つめる	自分の思いや知りたいことなどを、英語の音声や基本的な表現、ジェスチャー等で伝える。
	生かす	「相手の思いを理解しようとする」、「自分の思いを伝えて伝えようとする」など、積極的にコミュニケーションを図る。
教科等との関連	国語 音楽 道徳	国際理解 コミュニケーション能力

全学年 プルタブ・ペットボトルキャップの回収（児童会活動）		
重点テーマ	知る	プルタブ、ペットボトルキャップがどのように生かされているのを知る。
	見つめる	リサイクルの有用性や地球温暖化の現状と自分たちの生活との関連について考える。
	生かす	プルタブ、ペットボトルキャップの回収を行い、自分たちができることを実践する。
教科等との関連	社会 理科 道徳	総合

#### 実践の評価について

- ◎校内研修において、ESD推進の視点やプログラムの内容等について共通理解を図る。
- ◎それぞれのプログラムの実践を通して、中心教科・領域と関連教科・領域のつながりを検証する。
- ◎学習後の児童の振り返り（自己評価も含め）や保護者・教職員へのアンケート等を実施し、今年度のプログラム実践の成果と課題を洗い出す。

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

- 国際交流活動
  - 今年度は、実施しなかった。
- アワビの養殖の見学の実施 **低学年**
  - 「地域の特性を生かしたプログラム」では、低学年の生活科で「アワビの養殖（鶴ヶ浦）の見学」を行った。
- クリーン作戦の実施 **全学年**
  - 「環境教育」として、「クリーン作戦（地域の清掃作業）」を実施した。また、公民館・自治会・学校が連携し、EM発酵液を保護者と一緒に児童一人一人が作成した。

#### 実践の成果

- 津波避難訓練を通して、地域特有の自然災害に対する意識、および防災に対する意識が高まった。一番近い避難場所を的確に判断し、行動できていた。
- ワカメの種付け体験を通して、地域の産業の特徴や、ワカメの成長等について、実感を伴いながら理解を深めていた。
- 低学年の英語活動では、季節に合わせた行事等を紹介してもらい、他国理解が深まった。
- プルタブやペットボトルキャップの回収は各家庭からの協力も多く、保護者の関心も高かった。
- クリーン作戦では、地域をきれいにしようと意欲的に取り組む姿が見られた。また、理科や道徳などと関連づけながら進めた。

#### 次年度への課題

- 内容によっては、児童の自己評価を行わなかったものもあったので、計画的に実施できるようにする。
- 地域の特性を生かしたプログラムについては、保護者への周知をしっかりと行うとともに、保護者・地域の方々の参加も視野に入れ、計画を立案する。
- 本校としてのESDに対する取組、ユネスコスクール参加校としての取組を明確にし、共通理解のもと、PDSA（計画・実行・評価・改善）のサイクルで実践できるようにする。



地域をきれいにしようと、率先して活動に取り組む児童（クリーン作戦）



ワカメの種付けの説明を熱心に聞く児童（浦島の養殖漁業について調べよう）



自主的に高台に避難する児童（津波避難訓練）



地区ごとに掲示してある表示を見て、避難場所を確認（津波避難訓練）

# 06 はくさん 白山小学校

主なESD領域 環境 地域理解

## 「ネイティブブランドスクール」構想

### 1 実践の概要・ねらい

児童の身近な地域に継承している文化・環境（民俗、芸能、史跡、食、自然など）を地域遺産としてとらえ直し、ユネスコの世界遺産と同様に、地域（PTAや自治会など）や行政（公民館や市教育委員会）との協働により「白山地域遺産」として共通認識をする。

### 2 実践計画

#### ■ ふるさと教育 全学年

白山太鼓保存会からの協力・指導を受け、伝統芸能「白山太鼓」に親しみ、世代間の文化交流を深める。また、「白山小唄」の地域の指導者を招いて、白山小唄にあわせて踊り、郷土に伝わる舞踊に親しむ。

#### ■ コラボスクール協議会への参画 全学年

地域の児童に対して体験的なプログラム（地域の山への登山、食物生産活動など）を計画し、土曜日に実施する「サタデー・スクール」を利用して、年間10回程度活動する。

#### 実践の評価について

- ◎実践活動において、児童の行動観察や表現活動（記述、発表など）により、心情面の変化をとらえる。
- ◎横断的・総合的な取組により、教科における評価の観点をもとに実践を評価する。
- ◎実践活動へ参画している方々、行政などとの情報交換により、本活動の考察を行う。

### 3 今年度の実践

#### 実践の成果

- 児童は地域の伝統芸能や郷土芸能に触れたことで、世代間を超えた関わりができ、地域社会に残る「人」や「もの」への関心が高まった。
- 教員がコラボスクールへ参画することで、社会教育と学校教育の役割や、地域社会をコーディネートするためのよりよい方策を考えるきっかけになった。

#### 次年度への課題

- 総合的な学習時間の削減に伴う、年間カリキュラムの再編成が必要である。
- 市内の他の学校と、ICTネットワークを活用した、交流学習を模索する。

#### ◆ふるさと教育



「白山太鼓」の指導を受けた成果を地区民運動会で披露した



「白山小唄」にあわせて踊り、舞踊に親しんだ

#### ◆コラボスクール



「鹿折川・気仙沼湾浄化作戦」でEM発酵液を上流から投入した



学校畑で育てたジャガイモを、バザーで販売した

# 07 松岩小学校

主なESD領域 環境 国際理解 福祉

## 「共に生きていく社会」と「共に生きていく未来」について考えていく学習

### 1 実践の概要・ねらい

本校の総合的な学習の時間のテーマは「共に生きる」であり、地域の様子やそこに住む人についての過去や現在のことを調べたり、様々な体験をしたりして、「共に生きていく社会」（人とのつながり・地域）と「共に生きていく未来」（気仙沼市・日本）について考えていく学習を行っている。これらの学習を通して、ユネスコスクールとして、「過去を知り、今をみつめ、未来を考える」ESDの取組を推進していく。

### 2 実践計画

#### ■ さがせさがせ松岩の名人 3学年

地域に住んでいる様々な技能や特技をもった人について調べる学習を通して、身近にこのような人たちがたくさんいることを理解し、地域のよさを再認識する。また、これまで以上に地域への関心をもたせたり、理解を深めさせたりする学習を通して、地域への愛着を深める。

#### ■ 外国のことを知ろう 3学年

ALTと関わったり外国について書いてある本を読んだりして外国について興味をもったことについて調べ、分かったことをみんなに発表する。

#### ■ 松岩小発・地球にいいことしよう 4学年

浜清掃の活動を通して、自然の大切さに気づき、自分たちができる環境を守る活動を考え実践に結びつける。

#### ■ 地域の歴史を調べよう 4学年

地域に古くから残っている物について調べ、それらを守っていくために自分たちができることを考えたり、古いものを未来に残していこうとする心情を育てたりする。

#### ■ 外国のことを調べよう 4学年

ALTと関わったり外国について書いてある本を読んだりして外国について興味をもったことについて調べ、分かったことをみんなに発表する。

#### ■ 漁港気仙沼をみつめて 5学年

気仙沼市の水産業を発展させてきた理由のひとつに、自然環境が大きくかかわっていることを、調べ学習を通して理解させる。特に、「森と川と海」のつながりに目を向けさせ、それらのつながりの大切さに気づかせるとともに、未来に向かって自然環境を守っていこうとする心情を育てる。

#### ■ 福祉の心を学ぼう 6学年

自分たちができるボランティア活動を考え、実践する。また、その活動を通して、「共に生きていくこと」や「福祉の心」について考える。

#### 活動計画

##### 3学年 さがせさがせ松岩の名人

- 学区内の名人（野菜作りやお菓子職人、畳作り職人等）への取材、体験。
- 地域の仕事について分かったこと、名人について感じたこと、気づいたことなどについてをまとめ、発表。
- 「手話名人」より、手話の指導。
- 手話についてもっと知りたいことを調べ、発表。
- 自分の特技など自慢できることについて発表し、みんなでチャレンジする。

環境教育 地域理解

##### 外国のことを知ろう

- ALTとの交流
- 講話「アメリカの文化について」の実施。
  - 興味をもった課題について、質問したり、調べたりして、わかったことをまとめ、発表。

##### 発表会

- これまでの学習について、発表会を実施。

国際理解

##### 4学年 松岩小発・地球にいいことしよう

- 本校学区に隣接する尾崎漁港の浜清掃を実施し、家庭ごみの分別、ごみの種類や量について調査。
- 県漁協松岩出張所長の講話「生き物と環境について」の実施。
- アサリの採集（潮干狩り体験）、海の生き物の観察。
- ごみを減らすために自分たちができることについて、自分たちで調べたり考えたりしたことを発表。

環境教育

##### 地域の歴史を調べよう

- 地域の歴史（八幡神社、煙草館、昭和塚、松岩寺、公民館等）について、取材し発表。

環境教育 地域理解

##### 外国のことを調べよう

- ALTとの交流
- 講話「アメリカの文化について」の実施。
  - 興味をもった課題について、質問したり、調べたりして、わかったことをまとめ、発表。

##### 発表会

- これまでの学習について、発表会を実施。

国際理解

■ フィリピンの小学校児童との絵画交流

フィリピン・カワン小学校児童との絵画交流により、作品に描かれている風景や動植物、学校生活の様子等を興味深く見ながら、日本との違いや共通点、さらには他国の文化へも視野が広がる機会を得る。

実践の評価について

- ◎「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4観点について、児童の学習活動で見られる言動や学習カードへの記録、作品などから多面的に見て判断する。
- ◎学習から分かったことを「これからの生活の中でどのように生かしていくか」や、「未来に向けてどのように生かして行ったらよいか」等についても取り上げ、4観点の中で評価して行く。
- ◎これらの児童の評価を学年ごとに集約するとともに、教師の取組に対する意識や実態についても調査し実践の評価に活用する。
- ◎学習でお世話になった方々を、総合的な学習の発表会に多く招いて学習の成果を見ていただく。
- ◎近隣の小学校との合同発表会などを計画して、お互いの情報を発信しあう場を設定する。

活動計画	
<b>5学年</b>	<b>漁港気仙沼をみつめて</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●気仙沼市・宮教大連携センター研究員からの講話「地域の環境と海洋生物について」の実施。</li> <li>●岩手県一関市室根の「ひこばえの森」での植樹活動。</li> <li>●ワカメの種付けと刈り取り体験（県漁協松岩出張所、地元養殖業者の協力）</li> <li>●養ワカメの調理実習（講師：食生活改善推進員連絡松岩協議会）</li> <li>●豊かな気仙沼の海の保全等について、自分たちで調べたり考えたりしたことを発表。</li> </ul>	
環境教育	
<b>6学年</b>	<b>福祉の心を学ぼう</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●校内で児童自らができるボランティア活動の実施。</li> <li>●気仙沼市社会福祉協議会の方からの講話「福祉について」。</li> <li>●地区にある老人福祉施設や県立支援学校などとの交流活動。</li> <li>●お年寄りや障がいがある人などの苦労を疑似体験（キャップハンディ体験）。</li> <li>●老人福祉施設や、授産施設、特別支援学校の訪問、調べ学習。</li> <li>●車椅子や盲導犬を使って生活している方からお話を伺う。</li> <li>●学区を隣接する水梨小学校（ユネスコスクール）の6年児童と合同の発表会の実施。</li> </ul>	
福祉教育	
<b>フィリピンの小学校児童との絵画交流</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●管理校医のフィリピン訪問にあわせ、児童の絵画作品と校長の手紙をカワン小学校へ届けた。</li> <li>●お返しとして、カワン小学校より4～6年生児童の作品と校長の手紙が届けられた。</li> </ul>	
国際理解	

葉などで、山の土、そして川を通して、海に恵みを与え、未来の自分たちにかえてくる、ということにも気づいた。

■ 福祉の心を学ぼう 6学年

- ボランティアについての理解を深め、実践に結びつけることができた。また、地域のいろいろな施設の人々と交流することにより、交流する相手を楽しめる活動を考えることができた。また、地域に目を向け、いろいろな人が住みやすい工夫を見つけたり、「共に生きる」ことの意味について理解したりすることができた。

■ 実践全体について

- 教員にとっても、子どもたちとともに体験し、学ぶことにより、地域に住む人々や地域の自然環境などへの理解が深まるとともに、今後の活動の方向性についても考えることができていた。

次年度への課題

- 各学年の実践を全校で共有し、よりよい実践につなげていくにはどのようにしていくことが効果的か検討。
- エネルギーや資源について考える実践プログラムの開発。



「ひこばえの森」での植樹体験  
(5学年:漁港気仙沼をみつめて)



保育所幼児との交流活動  
(6学年:福祉の心を学ぼう)

3 今年度の実践

計画からの追加・変更点

■ さがせさがせ松岩の名人 3学年

- 「編み物名人より、指編みの指導」を追加。保護者より、指編みの仕方を教わり、マフラーなどを編む体験を行った。

■ 漁港気仙沼をみつめて 5学年

- 「ワカメの種付けと刈り取り体験」を、夏の猛暑によるワカメの不足のため、中止した。

実践の成果

■ 外国のことを知ろう 3学年

- ALTとの交流により、アメリカ合衆国のハロウィンなどの行事を知り、文化の違いについて気づいた。

■ 松岩小発・地球にいいことしよう 4学年

- 環境についての学習を通して、節水や節電など、エコロジーへの関心が高まり、実践にもつながった。

■ 漁港気仙沼をみつめて 5学年

- 気仙沼の水産業について学ぶことによって、自分たちの生活と地域との関わりについての理解を深めた。また、産業が自然条件に左右されていることにも気づくことができた。
- 海が山や川とも関わっていることから、植樹した木が、将来、落ち



編み物名人による指編みの指導  
(3学年:さがせさがせ松岩の名人)



ALTが行ったハロウィンパーティー  
(4学年:外国のことを調べよう)



手話名人による手話の指導(3学年:さがせさがせ松岩の名人)



地元の寺院で話を聞く児童(4学年:地域の歴史を調べよう)

# 08 みずなし 水梨小学校

主なESD領域 地域理解

## ふるさとを「知って、学んで、伝えよう」

### 1 実践の概要・ねらい

地域の歴史や伝統芸能（羽田神楽）、焼き物を通してふるさとの魅力を知り、郷土を愛する心情と態度を養う。

### 2 実践計画

#### ■ 水梨を知ろう **全学年**

地域の歴史や動植物に詳しいゲストティーチャーに、季節や学年に応じて教えていただく。写真を使った講義もあれば、現地に赴き実際に見て・触れて・感じるなど活動場所は多岐に渡る。児童は普段見慣れた風景が、少し違った視点から見る事が出来、地域に対する愛情をより深くもつことができるようになる。

#### ■ 羽田神楽を学ぼう **中高学年**

地域に百年余りに渡って受け継がれている「羽田神楽」を、地域の伝統芸能保存会のみなさんに指導していただき、年3回地域の方々に披露している。水梨地域は市内でも有数の米所であり、その豊作を願って踊られる羽田神楽は地域全体の歴史を語る上でも欠かせないものとなっている。

#### ■ 伝統工芸に挑戦 **高学年**

地域の風土にこだわっている陶芸家の先生に教えていただき、土作りからすべて手作業で行っている。たったひとつの作品を作るまでには、創作陶芸ならではの生みの苦しみがある。しかし、やきものを通して自分自身と向き合い、完成した作品は児童の発想力豊かな個性が表現され、すばらしい作品に完成する。

#### 実践の評価について

##### 観点

- ◎活動計画に基づいた実施
- ◎地域の歴史および地理的環境の習熟度
- ◎神楽の習熟度
- ◎やきものを通じた郷土を愛する心情

##### 方法

- ◎「水梨を知ろう」での探検記録や発表
- ◎「お山がけ」や神楽発表会での神楽演舞
- ◎やきもの合評会での作品発表

#### 活動計画

##### 全学年 水梨を知ろう

学年	活動内容
1、2	水梨地域の秋の草花を観察（11月）
3、4	水梨地域の昔の暮らし（6月）
5	水梨地域にある雑木林の役割（9月）
6	水梨地域の歴史（7月）

##### 中高学年 羽田神楽を学ぼう

月	活動内容
5	踊り（羽田神楽）の練習…2回／運動会での発表
9	踊り（羽田神楽）の練習…2回／「お山がけ」での発表
1	踊り（羽田神楽）の練習…2回／神楽の歴史を知る／鳥かぶとを作る
2	踊り（羽田神楽）の練習…3回／神楽発表会

##### 高学年 伝統工芸に挑戦

月	活動内容
5	オリエンテーション／伝統工芸・やきものについて調べる（5月～）／やきもの土作り／やきもの作りの準備／やきもの形作り
11	合評会／学習のまとめ

#### ◆水梨を知ろう



地域の方と一緒に、事前に調べたことを発表しながら現地を見学（6学年：水梨地域の歴史）



地域の方より、地域にある雑木林の役割について学ぶ（5学年：雑木林の役割）

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

#### ■ 羽田神楽を学ぼう **中学年**

- 「羽田神楽を学ぼう」の「鳥かぶとを作る」（1月中旬）について、3、4年生が複式学級のため、前年度に3年生の分も同時に作製していた。よって、今年度は作製しない。

#### 実践の成果

- 児童は地域の歴史や文化、自然に触れ、地域のよさをあらためて知ることができた。
- 教科と関連づけて行うことで、知識・理解がより深まった。
- 「やきもの学習」を通して、自己表現力が高まった。（5・6年生）
- 「水梨を知ろう」では、実際に地域の方と一緒に歩くことで、知ることの楽しさを学んだ。言葉を知っていても、実際のは知らない児童が多く、本物に触れることで知識と経験を結びつけることができた。
- 地域の方々との交流を通して、自分たちも地域の一員であることを知り、感謝する気持ちを育むことができた。
- 上学年が下学年に指導するので、上学年への尊敬の念、下学年への思いやりの気持ちを育むことができた。

#### 次年度への課題

- 体験があつての活動が多く、それを課題解決学習にどう結びつけていくか。

#### ◆羽田神楽を学ぼう



羽田芸能保存会の方々から指導をうける（踊りの練習）

#### ◆伝統工芸に挑戦



臼や杵などの道具を使って、地域で取れた土を、焼き物用に変える（土作り）



羽田神社の境内で練習の成果を発表（「お山がけ」での発表）



「五月晴れ」をテーマに、それぞれイメージしたものを形に表現（形作り）

# 09 しんじょう 新城小学校

主なESD領域 **環境** **地域理解**

## ふるさと新城の自然を「知ろう・作ろう・育てよう」

### 1 実践の概要・ねらい

農作物の栽培や新城地区を流れている大川の環境調査を通して、地区の環境を知る。また生態系を考え、ふるさとの環境保全に努めようとする意欲を育てる。

### 2 実践計画

- 土ってすごいね **3学年**
- ありがとう大川!これからもよろしく **4学年**
- 守れ!伝統を **5学年**
- 新城 歴史の宝箱 **6学年**
- 緑化・栽培活動 **全学年**

#### 実践の評価について

- ◎総合的な学習の時間では、その評価方法に従って行う。
- ◎教育諸活動における実践では、活動のねらいにそって評価を行う。
- ◎ゲストティーチャーや保護者に発表の形で自分たちの実践を知らせ、評価を受ける。

活動計画	
<b>3学年 土ってすごいね (総合)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学区内で育てられている食物の種類や栽培方法を知る。</li> <li>●野菜を実際に栽培して、成長の様子を記録する。</li> <li>●農作業の工夫や努力について学ぶ。</li> <li>●20年後の農業や新城地区の自然を考えてみる。</li> <li>●農業のプロフェッショナルをゲストティーチャーとして招き、発表会をする。</li> </ul>
<b>4学年 ありがとう大川!これからもよろしく (総合)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大川にすむ生き物を調べ、大川の役割を考える。</li> <li>●EMによる水質浄化について知り、実験する。</li> <li>●大川流域の他地区の学校と情報交換をする。</li> <li>●自分たちにできる大川を大切にすることについて考える。</li> </ul>
<b>5学年 守れ!伝統を (総合)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域に伝わる伝統文化(打ち囃子)、産業(農業)、工芸(削り花)を体験する。</li> <li>●伝統を守ろうとする方々の話を聞く。</li> </ul>
<b>6学年 新城 歴史の宝箱 (総合)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の歴史について、自分たちで課題を立てて調査活動をする。</li> </ul>
<b>全学年 緑化・栽培活動 (学校行事、生活科等)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級花壇による花苗の栽培</li> <li>●学校農園を使った野菜の栽培活動</li> </ul>

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

- 守れ!伝統を **5学年**
  - 5月に「代かきの見学」を追加。
  - 夏休み中に「田んぼの様子を観察」を追加。
  - 「かかし作り」を追加。「かかし」について調べた後、かかし作りを行った。
  - 市・宮城教育大学連携センター研究員による、「海の環境教育講座」を追加。
  - 「米を使った調理実習」を追加。育てたお米で、家庭科で調理実習を行った。
  - 「田んぼの生物多様性を知る」を追加。田んぼが稲だけではなく、多様な生物の住みかであることを学習した。
  - 「活動のまとめ」を追加。全校児童に、活動をまとめた紙と、育てたお米を一合ずつプレゼントした。4年生には、種もみも渡し、次年度の活動につなげてもらいたいということを全校朝会の時に伝えた。
  - 「新城地区の20年後について考えよう」を追加。20年後に田んぼはどのようになっていくか(どうあるべきか・何ができるか)について、これまでの経験や、インターネット等で情報を集め、児童同士で論じさせた。

#### 実践の成果

- 全体的な活動を通して、地域にいらっしゃるゲストティーチャーや保護者の方のご協力をいただくことができた。また、地域に(一部の児童は家族に)は素晴らしい先生がたくさんいらっしゃることを、あらためて確認することができた。
- 田んぼを柱として、お米を育てる工程を知り、稲作の大変さを知るとともに、田んぼが生物に果たす役割や、地域の未来について考えるきっかけとなった。
- 種もみを4年生に渡すことで、活動のつながりを次の学年にも意識してもらうことができた。また、全校児童に育てたお米をプレゼントすることで、全校に活動を知ってもらい、様々な方の力添えがあって学習できた成果を、少しでも全体に還元することができた。
- 自分たちが育てたお米を調理することによって、家庭科の学習につながり、食について考えるきっかけとなった。
- 「守れ!伝統を」に関わるESDカレンダーを作成し、1年間の活動を見通すことによって、総合的な学習の時間以外にも、教科・領域とのつながりを意識して指導に当たることができた。
- ESDについて、教員の理解が深まるとともに、ESDに対する考え方が変容した。

#### 次年度への課題

- 新学習指導要領完全実施に向けて、持続的・発展的で、系統性のある指導が行えるよう、教職員の共通理解のもとで活動の精査を行う必要がある。
- ESDカレンダーは5学年の「守れ!伝統を」のみ作成したので、教職員の共通理解のもと、他の学年、他の内容でも作成していきたい。また、教科書の内容が変更されるので、5年生のESDカレンダーもそれに合わせた内容に変更していく必要がある。
- 気仙沼市内の小学校で、稲作を行っている他の学校との情報交換や交流会などを行いたい。

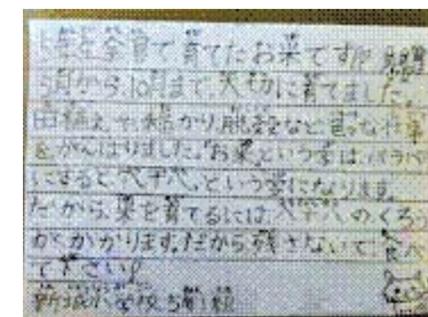
#### ◆守れ!伝統を(5学年)



かかし作りの様子。黒いひらひらは「カラス除け」の工夫だということを知った。



稲刈りの様子。地域の方や保護者の協力をいただいた。



全校児童に配布した学習をまとめたカード。

#### ◆ESD カレンダー 各教科・領域と、総合的な学習の時間「守れ!伝統を」(5学年)のつながりについて

教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語							いろいろな環境問題について調べよう	さまざまな角度から考えて書こう		身近な生活について話しよう		
社会	わたしたちの生活と食料生産							わたしたちの生活と工業生産				
理科	天気と気温の変化	植物の発芽と成長				花から実へ						
家庭		わたしたちができることをやってみよう						作ってみよう調べてみよう				
道徳	ひとふみ十年						世界初のトンボ保護区作り					
総合	オリエンテーリング	田植えをしよう	打ちばやしを学ぼう・体験しよう	稲の観察(夏休み)	打ちばやしの発表	稲刈り・脱穀	稲刈り・脱穀	お米のプレゼント	20年後の新城を考えよう	削り花		活動のまとめ

# 10 月立小学校

主なESD領域 **環境** 地域理解

## ふるさと八瀬を愛し、生き生きと学ぶ子どもの育成 —地域素材の活用と少人数・複式学級の特性を踏まえた指導の工夫を通して—

### 1 実践の概要・ねらい

ふるさとのよさを知ることにより、ふるさとの環境を大切に守り、人とのつながりや関わりを尊重できる子どもを育成する。

- どのようにしてふるさとのよさを守っていったらよいのか、体験から物事を主体的に考える子ども
- ふるさとの自然や伝統に親しむ子ども
- 未来を見つめ生きる力、応用力、コミュニケーション能力を身につける子ども

### 2 実践計画

- サツマイモを作ろう／八瀬川であそぼう **低学年**
- レッツ・ゴー八瀬川探検！  
そばのひみつを探ろう  
蚕のひみつを探ろう **低学年**
- 炭焼きができる八瀬のよさを探ろう／  
探究！大豆パワーの秘密／  
みつめよう、そして、伝えよう八瀬の心を！ **高学年**

#### 実践の評価について

- ◎保護者や地域の方々を招待し学習発表会を開催（1月）。
- ◎学校のホームページを使って、活動の内容を発信。
- ◎保護者や地域の方々から感想やアンケートにより評価を受ける。

「地域遺産教育」を推進するための3つの柱	
自然	川遊び／化石探検／農園活動／炭作り／そば打ち／豆腐作り／鮎の稚魚放流／蚕の観察／全校遠足（登山）
伝統と文化	早稲谷鹿踊り／塚沢神楽／昔話
人との関わり	敬老帳／月立子どもフェスティバル／縦割り活動／オアシスサ運動／運動会・学芸会の招待状

活動計画	
<b>低学年</b> サツマイモを作ろう	苗植え／成長の観察／収穫の喜びの発表／お世話になった方を招待して会食会を開く
<b>八瀬川であそぼう</b>	川遊びの計画／川遊び／興味をもったことを調べまとめる
<b>中学年</b> レッツ・ゴー八瀬川探検！	川遊び／学習課題を考える／川を探検／川のよさを伝える
<b>そばのひみつを探ろう</b>	種まき／成長の観察／そばについて調べる／そば打ち体験／発表会
<b>蚕のひみつを探ろう</b>	蚕の飼育・観察／蚕について調べる／繭からの糸の取り出し／繭細工作
<b>全学年</b> 炭焼きができる八瀬のよさを探ろう	炭焼き体験／炭の効用や炭焼きの工夫や苦労などを知る／地域の森林について学習課題を考える／地域の森林の豊かさをどのように伝えていくかについて考え、まとめ、発信する
<b>探究！大豆パワーの秘密</b>	大豆の栽培／成長の観察／収穫／伝統的な大豆の調理法を知る／大豆の調理／お世話になった方を招待して感謝の気持ちを伝える
<b>みつめよう、そして、伝えよう八瀬の心を！</b>	地域の山について調べる／地域の川について調べる／地域の化石を調べる／地域を守っている人、山で働く人の思いを知り、自然が果たす役割について考える／地域のよさや自分たちがすべきことについてまとめ発信する

#### ◆伝統と文化



地域の伝統芸能の練習を全校で取り組んでいる。高学年児童は、2度学校外（仙台、気仙沼）で披露した。（早稲谷鹿踊り）

#### ◆人との関わり



高学年児童が、全校で作成した敬老帳を、地区の77才以上の高齢者がいる家へ配付した。（敬老帳）

### 3 今年度の実践

#### 実践の成果

- 学校農園で栽培したサツマイモ、ソバ、大豆がみな豊作で、働くことの成就感を味わい、お世話いただいた方々への感謝の気持ちが高まった。
- 学校外での発表の機会を多数もつことができ、たくさんの方に学校の活動内容を知らせることができ、人前で発表する力が身についた。
- 地域の方々の人材活用で、児童や教員と地域の方とのつながりがさらに深まった。

#### 次年度への課題

- 体験活動と教科等との関連を図った明確な位置づけ。
- 学校外へさらに活動内容の発信を図っていく。
- 体験活動を生かして、考えをより深めさせる学習活動の工夫。

#### ◆自然



地域の方々のお世話をいただきながら、育てたサツマイモを収穫した。（低学年：サツマイモをつくろう）



自分たちで育てたそばを使って、そば打ち体験をした。（中学年：そばのひみつを探ろう！）



早稲谷地区炭窯での薪入れ、炭出し体験を通して、地域の伝統産業に触れた。（高学年：炭焼きができる八瀬のよさを探ろう）



縦割り班ごとに地域にある山（三峰様）に登り、地域の自然のすばらしさに触れた。（全校登山遠足）

# 11 落合小学校

主なESD領域 環境

## 自然豊かな落合小学校の栽培活動と環境保全活動

### 1 実践の概要・ねらい

落合地区の豊かな自然との関わりの中で、田や畑、花壇での「栽培活動」、「自然保全活動」等の実践を通して、環境について考え、環境を守ろうとする態度を育てる。

### 2 実践計画

- 生活たんけんをしよう **【中学年】**
- エコってなんだろう **【高学年】**

- こどもエコクラブ活動 **【全学年】**
- EM活用によるプール清掃 **【全学年】**

活動計画	
<b>【全学年】 こどもエコクラブ活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境図書委員会を中心に、取り組む内容と役割分担をする</li> <li>● 身近なエコ活動に全校で取り組む</li> <li>● 活動の結果などをまとめる発表する (平成21年度の活動…水の節約調べ、給食の完食調べ)</li> </ul>
<b>【全学年】 EM 活用によるプール清掃</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭で米のとぎ汁を回収し、EMと糖蜜等を入れ発酵させる</li> <li>● 発酵後、発酵液をプールへ投入し、プール清掃の作業軽減と環境への配慮を図る</li> <li>● 前期（プール清掃1ヶ月前）と後期（プール使用終了後）の2回実施する。</li> </ul>

<b>【中学年】 生活たんけんをしよう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の環境（山・川・農地・栽培作物等）を調べる</li> <li>● 川の水質や生物、有機農業について調べる</li> <li>● 作物の栽培・成長の観察</li> <li>● 農作業の工夫や努力について調べる</li> <li>● 地域の自然を守るための工夫を考える</li> <li>● 環境に配慮した農作業について考える（地域・保護者の協力）</li> </ul>
<b>【高学年】 エコってなんだろう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エコロジーについて調べる</li> <li>● 自分たちで取り組める活動を考える</li> <li>● 身近なエコ活動（節電・節水・ごみ減量等）に取り組む</li> <li>● 環境保護について考えまとめる</li> <li>● パンフレットや壁新聞にまとめ地域へ発信</li> </ul>

- 作物・花の栽培活動 **【全学年】**

活動計画				
【全学年】 作物の栽培活動				
月	活動	時間	形態	活動内容
4	野菜の栽培計画		学級	学年毎栽培する野菜の決定 植え方・育て方を調べる
	畑作り		学級	栽培する野菜に応じて「うね立て」をする
5	田植え	2	全校	苗運び（低学年） 田植え（中・高学年） 6学年児童は昔の道具を使った線引き体験も実施
	畑作り 苗植え	随時	学級	学級毎の計画に従う
9	稲刈り	2	全校	学年で分担し、稲刈り、稲束ね、稲運び、「はせがけ」を行う
10	稲こき	1	全校	学年で分担し、稲運び、稲こき、わら運びを行う
11	収穫祭	4※	全校 PTA ほか	収穫した米や野菜を調理し、お世話になった方々とともに収穫の喜びを感じ、味わい、楽しむ。 ※収穫、調理の下準備等（事前6時間）

花の栽培活動				
月	活動	時間	形態	活動内容
4	植栽計画	業前	全校	花壇のデザインを考える
5	草取り	業前	全校	春花壇の草取り
	球根掘り	1 2	低 中高	チューリップの球根を掘り起こし花壇を整理
6	花壇耕作		PTA	花壇へ堆肥を投入
	苗の植栽	2	全校	夏花壇の苗を花壇毎の計画に従って植える
7	草取り	随時	学級	グループ花壇を中心に草取りをする
8	草取り	業前	全校	夏季休業明けに全校で花壇の草取りをする
10	ビオラの仮植	1	全校	種から育てたビオラの苗をポットへ移す
11	花壇整理	1 2	低 中高	夏花壇の草花の片づけ
	花壇耕作		PTA	花壇へ堆肥を投入
12	球根植え	1 2	低 中高	色分けされたチューリップの球根を、花壇毎の計画に従って植える
	反省	業前	全校	グループ毎に振り返る

### 実践の評価について

#### 総合的な学習の時間について

◎課題について調べたことや、実践したことをまとめ報告会を行う。

#### 作物・花の栽培活動について

- ◎収穫祭を開き、栽培活動の様子を保護者や地域の方々に伝える。
- ◎収穫した作物を調理し、会食会を行う。
- ◎実りへの感謝とお世話になった方々への感謝の気持ちを表す。

### 3 今年度の実践

#### 実践の成果

- 児童は、実際に作物を栽培・観察することにより農作業の大変さや苦勞を体験し、食の大切さ、地域の農業のあり方や自然環境についてもっと知りたいという意欲が高まった。
- 普段の生活の中でできるエコ活動に取り組むことにより、自分たちの生活のあり方と環境がつながっていることを実感しながら、環境を大切にしようとする意欲が高まった。
- 地域の農業や環境について、職員の理解が深まった。

#### 次年度への課題

- 全校での取組が多くあるので、学年ごとの活動のまとめを発表し合って意見を交流する場を設定していきたい。



中・高学年は、田植え、低学年は苗運びと仕事を分担した（作物の栽培活動）



地域の方に教えてもらいながら、鎌を使って稲刈りをした（作物の栽培活動）



低学年は、刈った稲を「はせがけ」した（作物の栽培活動）



春花壇準備のため、花壇整理を全校で実施。一輪車は、高学年の担当。（花の栽培活動）



春花壇用のビオラの苗を割りばしでひとつひとつつまんで、ポットに植え替えをした。（花の栽培活動）



収穫祭で、お世話になった地域の方や家庭の方を招待して、収穫した野菜や新米を使って作った豚汁やご飯をみんなで食べた。（作物の栽培活動）

# 12 階上小学校

主なESD領域 **環境** **食育**

## 食を通して地域をみつめ、郷土の未来をえがく児童の育成

### 1 実践の概要・ねらい

気仙沼市が宣言した「スローフード都市宣言」の理念を学習の場に生かしていくことが児童の生き生きとした学びにつながるものと考え、平成14年に「階上小学校スローフード宣言」を宣言した。それ以降、改善を加えながら、1学年から6学年まで、「食」に関わる題材から課題を見つけ、地域の自然や文化、人々と関わり合いながら課題を解決していく学習を系統的に取り入れている。本校では、地域の特色ある「食」を切り口にして学ぶことで、食を取り巻く自然や人々のくらしのつながりを考える力や、自分の生き方や将来のあるべき地域の姿を提案できる力を育てるための学習を実践していく。

### 2 実践計画

#### ■ 茶豆を育てよう (低学年)

地域の特産である茶豆の種まきから収穫までを体験したり、見学したりする。また、「ずんだ団子作り」を体験学習に取り入れ、収穫の喜びを共有するとともに、食材への関心を高める。

1学年では、食材として食卓にならぶものが、地域の人の手によって育てられていることに気づくとともに、植物の成長の不思議さに興味をもって調べる。2学年では、前年度の経験を生かし、1学年児童への作業のアドバイスをする。他の野菜の成長と比較して茶豆を観察したり、グループで課題を解決したりしながら、地域の産物と自分のくらしとのつながりに気づかせる。

#### ■ 名人いっぱい、ぼくらの階上 (3学年)

イチゴやそばなど地域で生産される農産物をテーマにして、体験活動を取り入れた課題追究学習を行う。地域でイチゴやそばなどを栽培している方を「名人さん」と呼び、その人と関わりながら作業、成長、植物のつくり、食としての特徴などの課題を追究していく。「名人さん」との関わりの中で、農業を営む人の工夫や苦勞、喜びなどについて気づかせる。

#### ■ 一粒の米を追って (4学年)

学校田に苗を植え、作業や生育過程を体験・観察することにより、環境との関わりや日本の主食「米」の役割や大切さについて学ぶ。田植えや稲刈りは全校で取り組んでいるが、苗作りや稲を束ねるロープ作り、かかし作りは4学年児童が行っている。一粒の米が、苗になり、そして根を張り、多くの実をつけるまでに成長していく様子を調べたり、食料としての米について課題を追究したりする中で、日本人にとっての米の大切さについて気づかせる。

#### ■ 豊かな海 気仙沼・階上 (5学年)

気仙沼の主産業である水産業に焦点をあて、産業とくらし、地元食材と環境のつながりについて課題を設定し、探究活動を行う。

まず、気仙沼の水産業の現状を調べ、地域の生活との結びつきや産業としての位置づけを把握するとともに、抱えている問題をつかむ。そして、海の環境についても学び、なぜ気仙沼で水産業が盛んに行われているかを考える。さらに、学区内で行われている養殖業を題材として体験的な活動を取り入れた課題追究を行い、人と産業、経済、環境とのつながりをつかむ。「豊かな海は、豊かな森と海をよごさない人々の生活の仕方によってもたらされる」ことや、「安全で安心なものを生産することがいかに大切であるか」などに気づかせ、その両方を満たしている気仙沼のすばらしさを実感させる。

#### ■ スローフードを知ろう～「発信 味の方舟」 (6学年)

気仙沼の料理・食材・食文化の中から課題を設定し、気仙沼のスローフードについて学ぶ。スローフード気仙沼代表から「スローフードとは何か?」について話を聞いたり、学習旅行（修学旅行）で、福島県会津地方のスローフードについて学ぶ体験学習をしたりする。学習旅行では、気仙沼や会津のスローフードについてまとめたことを会津の小学生と伝え合いながら交流し、会津の伝統野菜を中心とした農業についても学ぶ。その特徴を比較することから、気仙沼の食と環境、くらしについて考えさせる。さらに、「さざなみシェフ」では、1学年から学んできたことを振り返り、

気仙沼の食材を使った児童のオリジナルレシピを考え、プロの料理人の方々（気仙沼最高料理研鑽会）から指導を受けて調理する。レシピを考え、調理をする中で、食材に込められた生産者や調理人の方々の願い、そして、自分の願いに気づかせていく。

学習のまとめでは、1学年から学んだことをもとに、未来に残したい食材や料理をひとりひとりが考え「味の方舟」に入れて、将来の気仙沼の姿を描きながら、今後取り組んでいきたいことをひとりひとり提言させる。

#### 実践の評価について

- ◎児童の他者理解・他者との関わり・自尊心等の意識・態度の変容からプログラムの成果と課題を考察。
- ◎児童の作文やレポート、発表資料などから地域の特色の理解度をとらえ、プログラムの成果と課題を考察。
- ◎児童の実践や提言に対する地域の方からの評価をもとに、プログラムの成果と課題を考察。

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

#### ■ 名人いっぱい ぼくらの階上! (3学年)

- 名人に塩作り名人と海苔名人を加えた。

#### ■ 豊かな海 気仙沼・階上 (5学年)

- 野外活動の中で地域の方の指導のもと、南三陸町志津川の楢島に上陸し、タブの森を歩きながら自然の豊かさにつれた。

#### 実践の成果

- 「食」を通して学ぶことで、生産と消費の関係だけでなく、地域の文化や経済、環境とのつながりにも関心をもつようになった。
- 地域の人々とのふれあいを通し、地域に暮らす人々への関心が高まるとともに、その人々の思いや願いに気づくようになった。
- 言語をツールとして様々な人々とかかわる技能が向上した。
- 多くの教師が、本校のスローフード学習の意義を理解するようになった。
- 学校教育と地域の連携が深まった。

#### 次年度への課題

- 地域の人材を活用した体験を更に充実させたいが、謝礼や交通費など金銭的なものが伴うので、その捻出をいかにするか。
- 同地区内の小学校と中学校で取り組んでいるテーマ（小学校が「食」、中学校が「防災」）が大きく異なっているが、連携を図る必要はあるのか。



まいた種の成長を追いながら、植物のすばらしさと農業の楽しさを体感。(低学年:茶豆を育てよう)



保護者などの協力を得て全校で取組んだ。秋には稲刈り、脱穀もした。(4学年:一粒の米を追って)



地域の養殖業を調べ「階上の魅力」を伝えるためにはどうしたらよいかを話しあった(5学年:豊かな海 気仙沼・階上)



市内の料理店に直接取材に行き、聞いて、食べて、魅力を探った。(6学年:スローフードを知ろう)

# 13 大島小学校

主なESD領域 **環境**

## 大島の自然を生かした環境学習の推進

・自然環境の保全について(海を守る)・生物を取り巻く環境について(生物多様性の保全)

### 1 実践の概要・ねらい

#### 地域性を生かした環境学習プログラムの実践

海に囲まれた大島は、国立公園に指定されている景勝地であり、観光業も盛んである。主な基幹産業は、ホタテやカキ、ワカメの養殖業を中心とした漁業であり、島民の生活の中心が海とともにあると言える。また、菜の花やゆず、ツバキなどの植物も豊富である。

この自然に恵まれた大島の豊かな環境を学習素材とし、児童の知的好奇心や探究心を喚起し、課題追究型の問題解決的な学習ができるように、これまでの各学年の環境学習プログラムの見直しと改善を行ったが、各学年の実践を振り返ると、十分に課題追究がなされたとは言えなかった。そこで、今年度は、体験学習の時期と位置づけをきちんとし、環境学習プログラムの実践化を図っていく。また、地域の環境について児童の理解を深め、よりよい視野で環境を考えていけるようにしていく。

#### 地域・専門機関との連携

大島には、自然環境保全のために尽力している個人や団体が多い。(NPO法人「大島大好き」、気仙沼漁協大島支部青年部および婦人部、気仙沼大島観光協会、ユネスコ協会気仙沼支所、ゆず生産者、大島海友会など)

また、島には北海道など県内外から多くの児童生徒が修学旅行や体験活動に訪れ、様々な自然体験学習を行っている。こうした優れた人材と素材を活用し、児童の興味・関心を高め、地域の環境からグローバルな環境を学んでいけるようにする。そのために、人材バンク一覧の積極的な活用を図り、総合的な学習の時間において、児童の必要感や疑問の解決に添えていけるような効果的な地域との連携をめざしていく。

### 2 実践計画

- **大島を知ろう**—自然マッププロジェクト— **3学年**
- **海を知ろう**—海を知らう— **4学年**
- **海を守ろう**—豊かな海プロジェクト— **5学年**
- **自然の恵みを永遠に**—エコプロジェクト— **6学年**
- **家庭への推進活動**—EMプロジェクト— **4～6学年**

#### 活動計画

##### 3学年 大島を知ろう —自然マッププロジェクト—

地域の方の支援を受けながら、菜の花・つばき・ゆずなどの草や木、花の観察や小田の浜や、石取浜での浜辺や磯の観察、学校近くの田んぼの生き物探しなど地域の生き物を見つける体験を通して、地域の動植物や自然について学ぶ。草花と生活との関わりや生き物の住みやすい環境などについて分かったことや調べた結果などを、「大島自然マップ」を作成してまとめる。活動を通して、地域よさに気づき、大事にしていこうとする気持ちを育てていく。

##### 4学年 海を知ろう —海の生物・菜の花プロジェクト—

地域の海に焦点を当て、磯の生物の観察や十八鳴浜の観察から海の生物や海藻、浜の環境などに興味をもたせる。その活動から課題を見つけ、追究していく。また、主要産業であるワカメの種付けと刈り取り体験を大島漁協青年部の協力を得ながら行う。

一方、「菜の花プロジェクト」について、NPO法人「大島大好き」の協力のもと、菜の花畑の見学、菜種の油絞り、バイオディーゼル燃料(BDF)で走る車の試乗体験などを行い、自然を生かして活動している人たちの取組を理解し、6学年の学習に発展させていく。そして、これらの一連の活動を通して、地域の海の豊かさを実感し大切にしようという気持ちを育てていく。

##### 5学年 海を守ろう —豊かな海プロジェクト—

「小前見島と大前見島の環境調べ」、「ホタテ耳釣り体験」、「海洋環境講座」を行う。無人島の小前見島の環境調べでは、松食い虫による被害状況を観察したり、島の環境調査を行ったりする。これらの体験と海洋環境講座で学習したことなどを有機的に関連づけて、地域の海をより深く知る学習を展開する。そのために、海水のプランクトンや栄養分を調べる活動も行う。

また、学習を進める中で海を守ることが私たちの生活を守ることに結びつくことを認識する。そして、これまで学習して分かったことをまとめ、地域や他校に発信していく。

##### 6学年 自然の恵みを永遠に —エコプロジェクト—

4学年の学習の発展として、NPO法人「大島大好き」代表から、バイオディーゼル燃料のしくみについて詳しく学び、地球上に優しいエネルギーについて実感し、エネルギーの視点から、わたしたちの暮らしと環境との共存について考えていく。また、漁協婦人部や青年部の協力を得ながら、5学年で耳釣りしたホタテの「背はだき」作業とホタテ調理の体験を行うとともに、カキ養殖について調べたり、浄化センターの見学を行ったりし、カキ殻と水の浄化について学ぶ。そして、海に優しいリサイクルと自分たちの生活との関わりなどについて分かったことを、他校へ発信していく。

さらに、世界の環境に視野を広げ地球環境問題について調べることで現状と問題を理解する。そして、これまで学習してきたことを振り返り、地域の環境の現状と未来について話し合い、考えを他地域に発信する。

##### 4～6学年 家庭への推進活動 —EMプロジェクト—

環境を大切にしようとする態度を育てるために、EM液を使用したプール清掃を行う。1リットルのペットボトルを各家庭で用意し、「EM米のとぎ汁発酵液」を家庭で培養してもらおう。それぞれもち寄った発酵液をプールの清掃に活用する。

#### 実践の評価について

- ◎児童の評価
  - ・累積的な評価(学習カード・感想・お礼の手紙・作文・作品など)
  - ・アンケートの実施(環境や学習に対する児童の経験、興味、関心、態度など)
- ◎教師による評価
  - ・アンケートの実施
- ◎外部からの評価
  - ・保護者や地域人材へのアンケート

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

##### ■ 海を知ろう **4学年**

- 「菜の花プロジェクト」では、菜の花畑の見学等は実施したが、菜種の油絞り、BDFで走る車の試乗体験は行わなかった。

##### ■ 自然の恵みを永遠に **6学年**

- バイオディーゼル燃料のしくみを調べる活動、浄化センターの見学は実施せず、地域の環境に密着した問題解決的な学習を行った。
- 小前見島に出かけ、松食い虫の被害状況を間近に見たり対策についての講話をいただいたりした。

#### 実践の成果

- 児童は、体験を通して地域の自然に触れ、地域の自然・環境について興味・関心を高めることができた。また、地域の自然や環境が豊かであることを知り、守っていきいたいという意欲を高めることにつながった。
- 課題に基づいて、情報収集したり、まとめたり、自ら学習しようとする姿が見られ、探究的な学習へとつながった。
- 問題解決的な学習を進めるための手立てや工夫について、職員で話し合いの機会を多くもつことができた。

#### 次年度への課題

- 体験活動のねらいを、より明確にした取組を進めていく。
- より具体的な評価の方法を位置づけていく必要がある。

##### ◆4学年：海を知ろう —海の生物・菜の花プロジェクト—



磯の生物観察の様子。石取り浜に出かけ、磯の生き物探しをした。イソギンチャクやツブなど、多くの生き物を見つけた。



ワカメの種付け作業の様子。ロープにワカメの種をはさみこむ。収穫は2月頃の予定。

##### ◆5学年：海を守ろう —豊かな海プロジェクト—



養殖いかだへホタテを吊す作業の様子。ホタテの貝殻にドリルで穴を開けロープに通す作業(耳つり)の後、いかだにホタテを吊した。1年後に成長したホタテを収穫する。



大島の海のすばらしさについて、調べたことをまとめたマップ作りを行った。

##### ◆3学年：大島を知ろう —自然マッププロジェクト—



ゆずの収穫の様子。大島のはゆず栽培の北限と言われている。春から観察してきたゆずが黄色く、大きくなり、自然の豊かさを実感した。



田んぼの生物観察の様子。タニシやイモリを教室で飼育し、観察を続けた。

##### ◆6学年：自然の恵みを永遠に —エコプロジェクト—



ホタテの出荷前に行われる「背はだき」の様子。収穫したホタテの汚れを取り除く作業を行った。



ホタテご飯作りの様子。漁協婦人部の協力をいただき、収穫したホタテでご飯作りをした。

# 14 おもせ 面瀬小学校

主なESD領域 環境

人とつなぐ 自然とつなぐ 未来へとつなぐ  
 自ら学び、自ら考える力をもった児童の育成をめざして  
 一言語活動に重点を置いた生活科・総合的な学習の時間の指導を通して

## 1 実践の概要・ねらい

身近な人々や自然、地域社会との関わりを通して、主体的に考える力を高める。また、自然環境保全への意識を高め、自分にできることを考え、友達や地域の人々と協力して実践しようとする児童を育む。

## 2 実践計画

- おもせっていいな **1学年**
- おいしいやさいをつくろう **2学年**
- 未来へつなげ!おもせ昆虫調査隊 **3学年**
- 未来へつなげ!面瀬川のいのち **4学年**
- 探ろう・伝えよう豊かなる気仙沼の海 **5学年**  
 一森・川・海と人々の生活とのつながりを追って
- 私たちの地球一始めよう、自分たちにできること **6学年**

### 活動計画

#### 1学年 おもせっていいな

草花遊びや端午の節句など、自然と関わった遊びや祭り・行事などの体験を通し、文化や伝統など地域の人の生活・営みと自然環境との関わりやつながりについて実感できるようにさせる。体験して感じたことや知ったことを、家族や地域の方々に伝える方法を考え発信する。

#### 2学年 おいしいやさいをつくろう

ミミズを飼育してつくった土を利用した野菜栽培や野菜農家の見学を通して、野菜の成長の不思議さ・神秘さを感じとらせるとともに、野菜が育つには季節や天気など、自然との関わりがあることに気づかせる。また、よい土とミミズ、おいしい野菜作りとの関わり、種→成長→種の命のつながりにも気づかせる。さらに栄養士の話を聞く活動を通して、野菜の栄養の力についても理解させる。その後、収穫物を使った野菜料理を作ったり、ジャガイモパーティーをしたりして「自然の恵みに感謝する心」を育む。

#### 3学年 未来へつなげ!おもせ昆虫調査隊

川や沼などの水辺に生息する昆虫(ヤゴやトンボ、ゲンゴロウなど)を調査・観察・飼育し、生息している昆虫の分布や生態、季節による変化等についてまとめる活動を通して、昆虫の住みやすい環境や生物同士のつながりを考える。さらに、その環境を守るために自分たちにできることを考え行動する。

#### 4学年 未来へつなげ!面瀬川のいのち

面瀬川にすむ生物の採集や水質調査を通して自然における川のはたらきを知り、生き物を育む河川環境について考える。また、食物連鎖による生物同士のつながりや、豊かな環境を保つための条件を理解し、その環境を守るために自分たちにできることを考え行動する。

#### 5学年 探ろう・伝えよう豊かなる気仙沼の海 一森・川・海と人々の生活とのつながりを追って

面瀬川河口の生物を観察・調査し海洋における生き物の多様性とつながり(食物連鎖)をとらえ、それらと人間の生活との結びつきについて理解する。さらに、「森・川・海」とのつながりを認識し、豊かな自然環境を維持するために自分たちが何をすべきか考え行動する。活動や調べたことを壁新聞としてまとめるために、河北新報社と連携し、「新聞作り講座」を実施する。

#### 6学年 私たちの地球一始めよう、自分たちにできること

消費型社会と循環型社会を探究する活動を通して、自分達の生活が自然環境に及ぼす影響について認識し、人と自然が共生できる環境を守るために、日常生活の中で、自分たちにできることを考え、実行する。出前市役所「マナビ応援課」を活用し、ゴミの減量と3Rの学習を実施する。またNPO法人「大島大好き」と連携し、菜種油の取組など、循環型の生活について学習する。

### 実践の評価について

#### 実践評価

- ◎環境に関する児童の意識・実態調査と変容比較(年2回)
  - ・環境問題への意識調査
  - ・環境保全に関わる日常の取組の実態
- ◎「ポートフォリオ評価」
  - ・児童の作品、感想、日記、写真等の日常の記録の累積
- ◎活動の見取りによる評価
  - ・自分が思ったこと、考えたことをどのように行動に移したかを見取る
- ◎教員の評価
  - ・環境教育に関する意識の変容
- ◎外部からの評価
  - ・保護者からのアンケートによる評価

### 成果報告

- ◎保護者・地域への報告会
  - ・参観日で各学年の取組の様子と成果を発表する。
- ◎外部への発信
  - ・ユネスコスクール交流を推進し、各学年の取組を発信。

## 3 今年度の実践

### 実践の成果

- 児童は、地域の人の話を聞いたり、面瀬川や尾崎海岸で水質調査や生き物を調査したりする活動を通して、地域の人や自然への興味・関心を高めることができた。
- テーマや課題、計画を話し合う活動に重点を置いたことで、自分が追求したいことを見つけ、自主的に地域の方々取材したり、図書館にいて調べたり、アンケートをつくらたりなど、主体的に探究活動を行う児童が増えできた。
- 地域の方やNPO法人「大島大好き」、市役所、河北新報社など、地域に密着した方々との連携を図ることで、無理のない内容で活動計画を立てることができた。
- 言語活動に重点を置いた指導の在り方を校内研究で模索する中で、各教科の言語活動で培うべき言語力の重要性を再認識することができた。
- 地域の人材、地域素材、地域連携などを見直すことで、教員のESDへの意識高揚を図ることができた。

### 次年度への課題

- 将来の担い手である子どもを育むために、保護者、地域の方々にESDの理念を広め、連携の具現化を図ること。
- 総合的な学習の時間だけでなく、さらなるESDの推進に向けて、どのような活動が必要か全教育活動を見通した計画を立てること。
- 中学校と連携してESDを推進すること。



豆の収穫の様子。6月に種まきをし、夏休み明けに収穫。収穫した豆は、みんなでゆでて味見した。(1学年:おもせっていいな)



地域にあるキュウリ農家の見学の様子。キュウリの栽培方法を農家の方から教えていただいた。(2学年:おいしいやさいをつくろう)



面瀬川の昆虫調査の様子。コオニヤンマなどたくさんのヤゴが見つかった。(3学年:未来へつなげ!おもせ昆虫調査隊)



面瀬川の河口付近の生物調査の様子。地域の方に魚や貝の名前を教えていただいた。(5学年:探ろう・伝えよう豊かなる気仙沼の海)



バイオ燃料(BDF)で走るディーゼル車の見学の様子。NPO法人の方から、菜種油からBDFを作る循環型の生活について学んだ。(6学年:私たちの地球)

# 15 唐桑小学校

主なESD領域 **環境**

## 唐桑の海の豊かさを実感しよう

— 「カキ養殖」を通して —

### 1 実践の概要・ねらい

保護者や地域、専門機関等と連携し、カキ養殖体験を中心とした活動を通して、ふるさと唐桑の海や自然の豊かさを実感させる。それらの学習活動を通して、子どもひとりひとりの自然環境への感性や科学的な探究心や思考力を育む環境教育を推進する。また地域および地球環境に対する認識を深めながら、持続発展的な視点で環境行動へと結びつける基礎を養う。

#### 期待される効果について

- 唐桑の豊かな海や自然のすばらしさを体感し、ふるさとのよさを実感し、ふるさとを愛する心を育成することができる。
- 水辺（海洋）環境と水生生物とのかかわりについての理解を深めながら、カキ養殖に関わる基礎的な知識を得るとともに、生産者と消費者の両方の立場から、持続可能な水産業や沿岸漁業についての考えも深めることができる。
- 家庭や地域、専門機関と連携し、課題追求や学習成果の発信の場面などの活動内容を充実させることで、コミュニケーション能力や自己を高めようとする意欲につながる。
- 唐桑を担う次世代の育成を図りながら、さらに地球的な視野を持たせ、持続可能な社会の担い手として、調和の取れた人間を育成することができる。
- 環境保全の重要性について、児童だけが理解するのではなく、保護者や地域の方々にも認識を深めてもらうことができる。

### 2 実践計画

児童が関心・意欲を持続させながら、長いスパンでじっくりと問題解決的な体験活動に取り組むことができるよう、4学年以上で唐桑の特産であるカキ養殖にかかわる体験を中心とした環境教育に重点を置いた単元を設定し、総合的な学習の中で実践していく。

これまでの実践の成果と反省の上に立ち、「持続発展教育（ESD）」の趣旨を踏まえながら、保護者や地域と連携したカキ養殖体験活動を通して、ふるさと唐桑の豊かな海や自然のすばらしさを実感し、それを保全し、よりよく生きる社会の担い手の育成に重点を置いた環境教育の推進を図っていききたい。

また、活動を推進するにあたっては、カキ養殖に取り組んでいる漁業関係者や関係諸団体、保護者、専門機関等との連携を密にし、「学校支援委員会」を組織し、協力を要請していく。

今年度は、2月の「津波」の被害のために支援員の方々（浅海漁業者の方々）の支援がどの程度になるか危ぶまれた。先日の第1回の支援委員会では、子ども達のために今年度も同様の支援をいただけることを確認し、昨年同様の活動を進める予定である。特に今年度は情報発信について改善を図っていききたいと考える。積極的にwebの活用を考えていきたい。

#### ■ 4学年

- カキを種苗から育てながら、カキの体のつくりや日本一のカキを育てるための工夫などの課題を追究する。

#### ■ 5学年

- カキを育てる活動をしなが、山・川・海のかかわりなど、カキが育つ唐桑の海の秘密にせまり、様々な要因が多様な環境を構成していくことに気づき、カキ養殖を持続するための課題を追究する。

#### ■ 6学年

- 半成貝から収穫するまでの育てる活動をしなが、カキの調理体験を通して、食の安全や唐桑のカキの流通などについて、課題を追究する。

#### — 学校支援委員会 —

- ◆市唐桑総合支所産業振興課  
カキの垂下、観察
- ◆唐桑公民館  
ふるさと学習会「網起こし」、「養殖場見学」の支援
- ◆県水産研究開発センター  
施設見学、講話、カキの解剖等
- ◆宮城教育大環境教育実践センターおよび水産試験場  
児童の疑問についての講話
- ◆漁協・浅海漁業関係者  
温湯処理、水揚げ、カキ剥き、リアス牡蠣まつりへの参加協力等
- ◆NPO法人「森は海の恋人」  
学習会「海と森に親しむ集い、プランクトンの学習」
- ◆PTA  
種はさみ、水揚げ、カキの殻剥き、調理等の支援

#### 実践の評価について

##### 基本的な考え方

- ◎日々の活動プリントや活動資料をもとに、学期末の評価を行い、3段階での到達度評価を行う。
- ◎評価の観点としては、「課題設定」、「問題解決」、「学び方・考え方」、「主体性・創造性」、「生き方」の5観点で評価しているが、今後改善を加えていく予定である。

##### 評価・検証の方法

- ◎日々の活動についての評価として、「ポートフォリオ評価」を利用し、児童ひとりひとりの変容や課題を把握し、次の活動に生かしていく。
- ◎体験活動のまとめ段階での評価では、学習参観日やリアス牡蠣まつり等の場を活用して、カキ養殖体験活動にかかわる発表会を行い、児童の学習の成果と身近な環境保全への意識について把握する。
- ◎環境教育に関するアンケート調査（児童、保護者、学校支援委員会）を行い、児童の意識の変容や理解を評価するだけでなく、よりよいプログラムとなるように改善を図っていく。その際はアンケート調査結果を保護者や学習支援委員会等関係者に公表し、環境教育や持続発展教育への理解と地域連携を一層深められるようにする。

##### 実施時期

- ◎カキ養殖体験の実践発表会の開催→第2学期の学習参観日など（12月）
- ◎まとめ段階での評価（1月）
- ◎環境教育に関するアンケート調査（1月）
- ◎アンケート調査の集計と考察（2月）

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

#### ■ 鮭の稚魚の放流活動の追加 **2学年**

- 6学年の活動「定置網起こし体験」につなげる活動として、今年度初めて2学年児童を対象とした「鮭の稚魚放流」を公民館との共催で実施した。自分達が放流した稚魚が4年後に成魚となって自分達のふるさとへ戻ってくるというストーリー性を十分にもたせることで、自然環境の保全や育てる漁業という観点をもたせることを目的として行った。

#### 実践の成果

- 体験活動への積極的な参加は、児童の自然への興味・関心を高め、積極的に活動する姿が見られた。
- 新しく担当した教員についても、子ども達の学習に積極的に取り組む姿を目の当たりにして、今後充実した環境学習を行う意欲を高めることができた。
- カキの養殖を取り入れた環境学習を実践することは、自然の恵そのものを学習していることにつながる。ふるさとの良さをより多くの人達に発信できるよう今年度ホームページを作成し、活動の取組を紹介した。

#### 次年度への課題

- カリキュラムの細案を作成し、実践活動をさらに充実したものにしていきたい。
- そのためにESDカレンダーを作成し、各教科との関連を図っていききたい。
- 他校、他地域との連携や交流を図り、比較することで、より唐桑の自然の素晴らしさや他地域との違いなどを実感させたい。



鮭の放流活動の様子(2学年)



講義「カキの体のつくり」の様子(4学年)



「干潟と磯の生き物調べ」の様子(5学年)



「グリーンウェイブ」の授業の様子(5学年)



「リアス牡蠣まつり」参加の様子(6学年)



「定置網起こし」の様子(6学年)

# 16 中井小学校

主なESD領域 **環境** **国際理解** **地域理解**

## ふるさを見つめながら、豊かな国際感覚を養い、未来に生きる子どもを育てる

### 1 実践の概要・ねらい

地域の豊かな自然や文化、産業等を実感的に理解し、ふるさとのよさを見つめ直す契機とするために、3学年以上において「ふるさと学習会」を公民館の連携のもとに実施している。また、学年毎のテーマに基づき、総合的な学習の時間を活用して、地域の住民や機関の支援を受けながらさまざまな体験活動を展開している。

さらに、本校は2008年にユネスコスクールに認定され、地域に根差しながらも国際的な視野を育む教育活動を目指し国際理解を基軸としたESDを推進している。ALTや地域に在住する外国出身者を発掘して関わりをもったり、海外の人々と交流したりして、地域と海外の協働による教育にも力を入れて取り組んでいる。

この学習の実現に向けて、児童が、地域を素材として学び、理解を深めたことを基にして、国を越えてコミュニケーションを図ることができるように、低・中学年では豊かな国際感覚を養う活動、高学年では英語によるコミュニケーション活動に重点をおいてプログラムチャートを作成し、教科学習や総合的な学習の時間とのつながりを図りながら体系的な国際教育を推進している。

### 2 実践計画

- あそんで ふれて せかいはっけん **1学年**
- 楽しもう せかいのぎょうじ **2学年**
- 聞いて・作って・味わおう -世界の食べもの- **3学年**

- わくわく体験! 世界の歌や踊り **4学年**
- 見つめよう! 私たちを取りまく世界 **5学年**
- 共に歩もう! 未来に向けて -地域と未来への貢献- **6学年**

ESD領域	関連領域	主な活動(学年)
国際理解	創意、総合、外国語活動	国際理解活動(低・中)、外国語活動(高)、国際交流(全)
環境	ふるさと学習、生活科、地域行事	クリーンヒルセンター見学(4)、定置網(5)、リサイクル活動(6)、栽培活動(全)
地域遺産	ふるさと学習、地域行事	風車作り(4)、貝塚・御崎神社(6)、崎浜大漁唄込・松園虎舞(全)
食育	ふるさと学習、生活科	フカヒレ料理(3)、コンニャク作り(4)、フィリピン伝統料理(中)
福祉人権	ふるさと学習、性教育	人権教育(6)、寿大学と交流(全)、福祉施設と交流(全)、性教育(全)

### 実践の評価について

児童は、「ふるさと学習」や国際理解活動・外国語活動を中心とするESDの学びを通して、身近な地域だけではなく世界がもつよさや課題、未来の可能性についても目を向けるようになった。今年度も以下の観点から、みなが共生できる持続可能な地域や世界のあり方についてASPネットワークを生かしながら国内外の学校や子どもたちとともに学び、考え、探求する活動を推進していく。

- ◎ふるさとのよさや価値に気づき、それを大切に受け継ごうとする思い。
- ◎外国のこぼや文化に興味・関心をもち、積極的にコミュニケーションを図る態度。
- ◎地域の人々や他の学校の子もたちとともに、地域や世界の課題や未来について考え、行動しようとする態度。

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

- 地域人材をリソースパーソンとして活用するため、対象となる国を変更するなど改善を図った。
- 異学年合同の単元を設定して、食生活に関する体験活動を行い学年間の学び合いを促進した。
- 6月にESD日米教員交流プログラムに参加する米国教員たちと直にふれあい、子どもたちが七夕等の日本の伝統行事を知らせたり、米国教員に参加してもらったりして国際理解を深める活動を行った。
- 1月には、4学年の児童が、地域の地産地消グループや祖父母と連携して、地域のコンニャク作りや伝統料理を一緒に作り味わったりする活動を行い、韓国の先生方にも参加してもらって交流を図った。

#### 実践の成果

#### 国際理解の観点から

- 外国(アジア)出身の保護者を講師として国際理解活動で指導していただいた結果、その国が児童にとって身近な国となり他の国々への興味関心にもつながるだけでなく、その国や講師の保護者に対する尊敬の心が育まれ、外国出身の保護者やその子どもたちの学校や地域の中での誇りにつながった。
- 多くの外国の方々とは直接触れ合うことによって、低学年でも英語(言語)だけではなく、身振りや表情で伝えたり感じ取ったりするなどコミュニケーションを図ることができると実感した。その中で、学年の発達段階に応じて、外国の文化を直に教えてもらったり伝えたりする活動が展開できた。
- 外国の人々に、日本の自然や伝統行事(文化)など日本の「よさ」を伝えるためには、自国の自然や文化を知る必要がある。その活動を通してあらためて日本の自然や文化の奥深さや新しい発見ができた。
- プログラムチャート(単元計画一覧表)に基づいて、体系的な国際理解教育を推進したことで、海外の人々とも自然にコミュニケーションを図ったり、外国の文化に対して興味関心を高めたりする児童が多くなってきた。また、教員も各教科や活動との関連を意識しながら指導に当たるようになった。

#### 地域の視点から

- 地域に根ざした「ふるさと学習」を通して、地域の豊かな自然・文化遺産、産業や流通などについて体験を通して調べ、実感し、理解することができた。また、保全への意欲と態度も育まれた。
- 学校でのESDの取組を、お便りや参観日等で発信することで、保護者や地域の方々の中にも国際理解やふるさと学習会での実践について知る人が増えてきた。



フィリピン出身の保護者にフィリピンの遊び「Jack and Stone」を教えてもらい、一緒に楽しむ児童(1学年:あそんで ふれて せかいはっけん)



「一緒に飾りましょう」、「ここにつけると良い!」アメリカの先生方がどんな願い事を書いたか、興味津々の児童(2学年:楽しもう せかいのぎょうじ)

#### 活動計画

**1学年 あそんで ふれて せかいはっけん**

草花の栽培や、自然素材を使った造形活動や遊びを通して、身近な自然に親しむ活動を行う。これら遊びと関連を図りながら外国人と一緒に遊び、交流する楽しさを体験することで、外国と日本のこぼや遊びの違いを感じ取る。

環境教育	国際理解
------	------

**2学年 楽しもう せかいのぎょうじ**

地域の磯の生物観察や野菜の栽培活動を通して、身近な自然の豊かさを体験的に理解する。また、外国人と一緒に日本の伝統的な行事を楽しみながら、地域の身近な自然と年中行事との関わりについて理解を深めるとともに、外国の行事や風習にふれ、日本と外国の行事についてそれぞれよさや違いについて感じる。

環境教育	国際理解
------	------

**3学年 聞いて・作って・味わおう -世界の食べもの-**

魚市場や青果市場等の見学や野菜の栽培活動を通して、身近な「食」について理解を深める。また、地域在住の外国人やALTに外国の食べものや料理について教わったり味わったりする交流を通して、日本との食文化・生活文化の違いについて関心を高める。

環境教育	国際理解	食教育
------	------	-----

**4学年 わくわく体験! 世界の歌や踊り**

地域の伝統について学んだり、昔ながらの遊びを調べたりする活動を通して、地域の人やもの、伝統文化や伝統芸能のよさについて感じ取る。また、地域在住の外国人やALTの出身国の文化や伝統について体験的に学び、日本との言葉や文化の違いについて感じ取ったり、外国の人に自分の思いを伝える態度を育む。

国際理解	地域遺産
------	------

**5学年 見つめよう! 私たちを取りまく世界**

「森は海の恋人運動」の見学(水山養殖場、室根山)を行ったり定置網起こしを体験したりしながら、自然界の仕組みについて理解を深め、他教科と関連させながら自分たちが行うことができる自然環境保護の取組について、テレビ会議等で他校と交流する活動を行う。また、1~4年生までの間に育んできた豊かな国際感覚を基に、児童の日常生活や学校生活にかかわる体験的な活動を通して、英語に慣れ親しむことに重点を置いてコミュニケーション能力の素地を養う。

環境教育	国際理解
------	------

**6学年 共に歩もう! 未来に向けて -地域と未来への貢献-**

福祉施設の訪問や地域住民にも協力を呼びかけたアルミ缶やプルタブ集めを年間を通して実践し、福祉施設に車いすを贈るボランティア活動を行う。地域の環境保全の一端を担うボランティア活動が、地域の人々の助けになることを知り、小さな取組みがもつ多様な可能性について気づかせ、小さなことでも行動する意欲を高める。また、ALTなどに対し、学校のことやこれまで学習してきた地域の様子について伝えたり、外国の様子などについて教えてもらったりする交流活動を通して、英語による基本的な表現の楽しさに触れる。

環境教育	国際理解	福祉教育
------	------	------

- 児童がこれまで目を向けなかった地域の自然や文化についても、地域の人々とふれあひながら学んでいくことで関心をもち、自分から主体的に調べる行動が見られるなど探究的な姿勢が身についてきた。

■ 児童・教師の変容から

- 調べたことをまとめたり、写真を使って発表したりするなど思考力・表現力が高まってきた。
- 教員自身が地域のことを知り、地域の事象や人材とのつながりをもつ良い契機となった。

次年度への課題

- これまで、国際理解活動やふるさと学習会で学んだことを異学年で活動を見せ合ったり意見交換をしたりする機会が少なかったので、体験活動の中で、異学年間の「伝え合う活動」を実践していきたい。
- ESDの取組に地域人材に協力してもらう体制ができてきたが、今後も活動の幅を広げるために、新たな人材の発掘が課題である。
- ユネスコスクールのネットワークを活用し、自校の実践を他校と交流する機会をもつ必要がある。
- 活動の成果を具体的な子どもの姿（変容等）から評価できるような評価手法の検討が必要である。
- 中学校や幼稚園と連携・協働した実践を行い、幼・小・中が連携したESDの取組をめざしていく。



国際生物多様性の日の「グリーンウェイブ」の一環として、全員で、校庭にキンモクセイの苗木を植樹する児童 (3学年:聞いて・作って・味わおう)



フィリピン出身の保護者に踊り方を教えてもらい、ALTと一緒にバンブーダンスを楽しむ児童 (4学年:わくわく体験！世界の歌や踊り)



ふるさと学習会「室根山をたずねて」で、「森は海の恋人運動」提唱者、畠山重篤氏から「森と海のつながり」について学ぶ児童 (5学年:見つめよう！ 私たちを取りまく世界)



地域の貝塚から出土した弥生式土器を興味深そうに見つめる児童。この後、実際に自分たちの手で土器の発掘を体験した (6学年:共に歩もう！未来に向けて)

# 17 小原木小学校

主なESD領域 環境

## ふるさと「小原木」を体験しよう

### 1 実践の概要・ねらい

- 地域への関心を高め、海をはじめとする豊かな自然環境や地域で伝えられている文化を大切にし、それらを受けつごうとする態度を育てる。
- さまざまな体験活動を通して、地域の良さを見つけようとする態度を育てる。
- 海外、国内の他地域との交流活動の成果を、ユネスコスクール等にインターネットで発信するとともに、環境教育について情報交換を行い、互いの実践を学び合う。

### 2 実践計画

- ふるさと学習会 (全学年)
- 育てて、つくって、食べて (全学年)
- 海に親しむつどい (全学年)

活動計画	
<b>(全学年) ふるさと学習会 (公民館との学社融合事業)</b>	
学年	活動内容
1、2	5年生になった時に戻ってこようを願って、サケを放流する。
3	広域防災センターなど、地域の公共施設見学を行う。
4	ふるさとの山(霧立山)に登る。
5	養殖場見学や定置網起こし、カキむき体験を行い、唐桑の漁業を体験する。
6	ふるさと旧道めぐりや地域の私設資料館での学習、座禅体験を通して、地域の歴史と伝統を学び、よりよい未来のふるさと作りのために分かったことや感じたことを発信する。
<b>(全学年) 育てて、つくって、食べて (生活科、総合)</b>	
学年	活動内容
1、2	サツマイモを栽培し、秋祭りで来校した地域の方々や祖父母と食べる。
3	大豆を栽培してみそ作りをする。
4	キュウリやトウモロコシを栽培する。
5	米作りやサツマイモ、小麦の栽培を行い、3年生の時に作ったみそを調理実習で使う。
6	ジャガイモやハツカダイコンを栽培し、前年度に植えた小麦を使ってうどんをつくる。
<b>(中高学年) 海に親しむつどい (学校行事)</b>	
学年	活動内容
全体	海浜清掃
学年毎	「グループで水族館をつくろう」、「磯の生物を観察しよう」など

#### 実践の評価について

◎活動への取組の様子や意識調査・活動のまとめをもとに評価する。

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

- 4学年の「ふるさと学習会：ふるさとの山に登る」は、悪天候のために中止。クリーンヒルセンターや地域のダムなど、水と環境に関する施設見学を行った。
- 5学年の調理実習で、3年時につくった味噌を使う予定だったが、都合により4年時のものを使用して実施した。また、「網起こし」後に、朝食として、保護者の協力のもと、サケ汁をいただいた。
- 5学年の栽培作物を「サツマイモ、小麦」から「ハツカダイコン」に変更した。
- 6学年の小麦を使つての料理は、うどんから、「カニぱっとうへ」変更。保護者の協力を得て、カニぱっとうをつくった。
- 「海に親しむつどい」の学年毎の活動に「ミニ遠泳」を追加した。

実践の成果

- 休日に家族と海釣りに行くなど、海に親しんでいる児童もいるが、その割合は多いとは言えない。様々な活動は、児童と地域を結びつける働きをしていると言える。
- 作物を育てたり魚をとったりする経験が少ない教職員もおり、体験を通して、農業や漁業に関する理解が深まったと言える。

次年度への課題

- 総合の時間の減少により、内容を見直している。食に関する内容を、地域全体に関する内容へ変更する予定で、計画を作成中である。



「網起こし」の様子。早朝に漁師さんたちと漁船に乗り、定置網起こしを体験した。(5学年:ふるさと学習会)



「網起こし」の様子。船の上はサケの他にフグやサバ、イカなどいっぱいになった。(5学年:ふるさと学習会)



校庭脇にある畑に、サツマイモの苗を植えた。校庭の落ち葉でつくった腐葉土も土に混ぜ込んだ。(低学年:育てて、つくって、食べて)



1年生の顔の幅よりも長いサツマイモが収穫できた。秋祭りに地域の方々などと、おいしくいただいた。(低学年:育てて、つくって、食べて)



前年度に畑に植えておいた小麦を収穫して、小麦粉にした。後日「カニぱっとう」をつくった。(6学年:育てて、つくって、食べて)



参加者全員で浜のゴミ拾いをした後、学年毎の活動を行った。低学年児童はヒトデや小魚など、磯の生物を観察した。(海に親しむついで)

# 18 津谷小学校

主なESD領域 **環境** **地域理解** **食育**

## 豊かな自然・恵まれた地域の環境を生かした「地域学習」の実践

### 1 実践の概要・ねらい

- 「ふるさと津谷」の恵まれた自然・地域の環境を生かし、「人・もの・こと」との関わり合いを通して、ふるさとを愛し、よりよくしようとする心を育み、自己の生き方を考えることができるようにさせる。
- ユネスコスクールとして、国内外の学校へ情報発信に努め、「地域学習」に取り組む他校と情報を交換し合うことを通して、相互に「学び」を深め合う。

#### 育てたい資質や能力および態度について

- 問題を解決していく力／学び方や考え方を学ぶ力…探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、解決する能力や課題に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。
- 自分の生き方を考える力…体験的な学習に取り組む中で、思いやりの心や自立心を育み、自己の生き方を考えることができるようにする。

### 2 実践計画

■ すてき津谷の町・人 **3学年**

■ やさしさの輪を広げよう **4学年**

■ さぐろう!本吉の産業 **5学年**

■ ぼくたちのふるさとからの提案! **6学年**

活動計画	
<b>3学年 すてき津谷の町・人 (総合)</b>	
主な単元	発見! すてきな町・人
育てたい資質や能力および態度との関連	問題を解決していく力 町や人について調べる活動を通して、地域への関心を高め、自分なりの課題をもつて調べることができる。 学び方や考え方を学ぶ力 調べる活動、制作活動や表現する活動を通して自分の追究した課題を工夫してまとめ。 自分の生き方を考える力 町や人への関心を高め、地域の人々とかかわりながら町や人に親しみ、誇りをもつ。
<b>4学年 やさしさの輪を広げよう (総合)</b>	
主な単元	私たちのエコプラン
育てたい資質や能力および態度との関連	問題を解決していく力 身の回りのリサイクルを調べる活動を通して、自然や環境についての関心を高め、自分の課題をもつて調べることができる。 学び方や考え方を学ぶ力 調べる活動、制作活動や表現する活動を通して自分の追究した課題を工夫してまとめ、友達に分かりやすく表現する。 自分の生き方を考える力 自然や環境に関心を高め、地域や人々と深くかかわりながら地球に優しい環境作りを進んで取り組む。
<b>5学年 さぐろう!本吉の産業 (総合)</b>	
主な単元	さぐろう!大豆・米の秘密
育てたい資質や能力および態度との関連	問題を解決していく力 自己の課題を設定し、学習・体験活動を踏まえて、住みよい町を作るための根拠を考えながら課題を解決する。 学び方や考え方を学ぶ力 津谷地区の産業に目を向け、地域の自然や地域の特性について必要なことを調べたり表現したりする。 自分の生き方を考える力 自分たちが生まれ育った町の産業や、それに携わる人への関心を高め、郷土を愛する心を育む。
<b>6学年 ぼくたちのふるさとからの提案! (総合)</b>	
主な単元	町弁を作って、ふるさと津谷の良さを発信しよう
育てたい資質や能力および態度との関連	問題を解決していく力 自己の課題を設定し、学習・体験活動を踏まえて、町の特産品を使った弁当を作るための方法を考えながら、課題を解決していく。 学び方や考え方を学ぶ力 津谷地区の自然・産業などに目を向け、特産品を生かした弁当を作るために必要なことを調べたり表現したりする。 自分の生き方を考える力 自分たちが生まれ育った町の産業や、それに携わる人への関心を高め、郷土を愛する心を育み、地域の一員としての自覚を高める。

### 緑の少年団活動 **全学年**

- 緑化体験活動を通して、進んで住みよい環境を構成する態度を養う。
- 自然を敬愛し、生物を愛護する態度を養い、「みどりの好きな子」を育てる。
- 勤労と奉仕を重んずる態度を養うとともに、生産することの喜びを味わわせる。
- 仕事を能率的に進める態度、習慣および創造性を育てる。

#### 実践の評価について

◎ 「ポートフォリオ評価」により、学習活動や体験活動で使ったワークシートや作品、自己評価カードなどを累積し、児童の学習への取組状況や学習の成果を把握する。

- ◎学習のまとめとして保護者やお世話になった方々を招いて発表する機会を設定する。その際、児童の発表内容（まとめ内容）や発表意欲・態度等を観察し評価する。
- ◎児童の実態や地域の特徴に沿ったカリキュラムになるように、実践をもとに年度末に年間指導計画を見直し、具体的な活動内容の改善を図る。
- ◎共通のテーマについて国内外の学校と相互に情報を交換し合い、互いに学び合うことにより、児童に国際的な視野を育むとともに、地域の一員として「ふるさとを愛し、よりよくしていく」とする自覚を育てる。

活動計画

【全学年】緑の少年団活動人（環境緑化活動）

「花と緑いっぱい」の学舎、ふるさと津谷から発信する環境活動」と標榜して、取り組む。生活科、特別活動、総合的な学習の時間などに「緑の活動」の時間を設定し、全校児童が学年花壇や学年教材園で花壇作りや栽培活動に取り組んでいる。「緑の少年団」の活動母体である緑化委員会は、花の苗を種から育て、プランターに移植して地域に広げ、「津谷地区をきれいな花の咲く自然豊かなクリーンな町に！」と呼びかけている。  
 ジャイアントヒマワリは、自宅および地域にも配りきれいな花を咲かせた後、種を収穫し、それからバイオ燃料としてのヒマワリ油を取り出してエンジンを動かして見せるというバイオマス学習を小・中連携して展開している。これは、CO<sub>2</sub>削減、環境学習への視座を見据えた学習である。

3 今年度の実践

計画からの追加・変更点

■ やさしさの輪を広げよう 【4 学年】

「津谷川を守ろう」を追加

- 地域でEMの活動に取り組んでいる方の協力を得て、春と秋の2回、プールにEMを投入した。
- 地域で淡水魚の保護活動に取り組む方の協力を得て、津谷川に鮎の稚魚を放流した。
- 県環境生活部環境対策課、市環境政策課、市・宮城教育大学連携センターの協力を得て、津谷川の環境指標水生生物調査を実施した。

■ ぼくたちのふるさとからの提案! 【6 学年】

- 会津地方への修学旅行において、会津の食材や郷土料理を取り入れたお弁当を食べ、地元津谷の町弁を作るという意識をもたせ、意欲の向上を図った。

■ 緑の少年団活動 【全学年】

バイオマス学習について

- ヒマワリの種からバイオ燃料としてヒマワリ油を取り出して、ディーゼルエンジンを動かす実践について、今年度は実施しなかった。

「花の苗の収益金をケニアのスラム街の子どもたちに送ろう」の実施

- 今年度ケニアのスラム街の支援活動のお話を聞く機会があり、貧しい中でもたくましく生きている子どもたちに自分たちでできることはないかを考え、花苗を販売して収益金を送る計画を立てた。
- 夏季休業中の町のお祭りにあわせて実施。緑化委員会を中心として、ストロベリーキャンドルやコウリスなどを販売し、約2万円の収益を得ることができた。年度内にキベラスラムに送金する予定である。

4学年の活動について

- 「緑の活動」に理科のヘチマと関連させてスイカの栽培を追加した。

実践の成果

■ すてき津谷の町・人 【3 学年】

- 自らの興味・関心をもとに、課題を設定し、分かったことをメモにまとめることができた。
- 地域に住む人や家族の得意なことを知ることで、身近な人や年長者への尊敬の念を育むことができた。
- 社会科の学習と結びついて、児童が地域の一員である自覚を深めることにつながった。
- 本吉町で盛んな産業や人材についての情報を収集することができた。

■ やさしさの輪を広げよう 【4 学年】

- 児童は、身近な津谷川と関わる中で、自然に対する興味・関心を高め、生物多様性に気づき、豊かな川の自然を守ろうという意識をもつことが出来た。

◆3 学年：すてき津谷の町・人



地域の年配者の方にインタビューを行い分かったことをワークシートにまとめた。また、お礼の手紙で感謝の気持ちを伝えた。

◆4 学年：やさしさの輪を広げよう



津谷川・下川内地区の瀬に入り、調査した。予想以上に多様な生物がいたことに驚いた。



見つけた生物を講師の指導を受けながら、種類を同定した。



学校にもち帰った後、実体顕微鏡で詳しく観察。児童は、生物の姿や動きに感動していた。

- ヘチマやスイカの栽培を通して、植物の成長に興味・関心をもって取り組むことが出来た。豊かな実りに満足するとともに、「緑の活動」を通して、環境への意識を高めることが出来た。

■ さぐるう!本吉の産業 【5 学年】

- 稲作業（田植え、稲の観察、稲刈り）の自然にかかわる活動から、自分たちも自然の中の一員という感想をもつ児童が見られた。
- 年間を通しての作業や稲の病気の多さなどから食べ物を収穫することの難しさを学ぶことができた。たくさんの手をかけて得た食材からできているメニューがテーブルに並んでいると知り、大切にしなければいけないという思いが深まっている。

■ ぼくたちのふるさとからの提案! 【6 学年】

- 津谷の食材や郷土の料理に目を向けることで、あらためて津谷のよさを見直すことができた。
- 町弁の食材として、自分たちが育てた大豆で作った味噌を使った。この味噌は、地域の方の指導を受けて長い間かけて出来上がったものである。このように、お弁当の食材として使うものには、それまでにはいろいろな人の手間をかけて作られていることを知ることができ、食への感謝の気持ちを育てることができた。
- 食を通して郷土を愛する心が育ってきている。

■ 緑の少年団活動 【全学年】

- 緑化活動を通して、自然や緑を大切にすることを育てることができた。また、募金活動を通して、世界へ目を向けることができた。

次年度への課題

■ すてき津谷の町・人 【3 学年】

- 津谷についての知識が乏しい中で、津谷の人材を扱う学習は困難を伴った。前年度やそれ以前に関わったことのある“人”、また、津谷に関わりのある“もの”のリストを早急に作成し、活用していくことが必要である。
- 体験活動の充実を図る。名人との体験活動を重視し、その活動から疑問や知識をもてるようにする。

■ やさしさの輪を広げよう 【4 学年】

- 現地での活動時間が短く、十分な観察ができなかった。学校からの経路や移動手段を検討し、時間が十分に取れるように計画をする必要がある。
- 講師や保護者の協力体制がよくなった。講師の依頼方法や現地観察の体制などを整理し、次年度へ申し送るようになることが必要である。

■ さぐるう!本吉の産業 【5 学年】

- 水田の活動や観察は、1学期に集中している。野外活動も1学期だったので、観察時間を十分に取ることはできなかった。学校行事との時期の調整も必要である。

■ ぼくたちのふるさとからの提案! 【6 学年】

- 津谷の食材でも、時期によりなかなか準備できないものもあった。
- 学校でできる調理法には限りがあるので、児童の思いを十分に達成できないことがあった。
- 地元で食に携わる方を講師に招いて、食材や調理法についての講話をもらおうと、子どもたちの発想が更に広がったと思うので、次年度は当初の計画に盛り込むようにする。

■ 実践全体について

- 継続的に活動できる体制を今後も整えていくことが重要である。
- 学校、児童の活動をさらに地域に広げられるように工夫していく。

◆4 学年：やさしさの輪を広げよう



プール清掃前にEMを投入。プール側面の汚れが見事に綺麗になっていた。

◆5 学年：さぐるう!本吉の産業



初めての手植え。足は忘れられない感触だった。田植えの苦労を肌で感じた。



自分たちが育てた稲を刈り、その大変さを感じるとともに、喜びも大きかった。

◆6 学年：ぼくたちのふるさとからの提案



6 班に分けて「津谷の町弁」づくり。班ごとに「お弁当の名前を考え、食材や料理を考えました。」



5 年生のときに仕込んだ味噌が完成したので、それを積極的に利用していた。



「味噌おにぎりづくり」の様子



児童が発案した、津谷のシンボル「ヒマワリ」をイメージしたお弁当。

# 19 馬籠小学校

主なESD領域 **環境** 幼小連携

## 人・自然・地域に学ぶ馬籠っ子

人、自然、地域に触れ、人との関係性や自然環境との関係性、歴史的な背景を含めた地域との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる児童を育てる。

### 1 実践の概要・ねらい

- これまでの学習を生活科や総合的な学習の時間を中心に、各教科・領域との関連を図りながら、意図的、計画的にESD（特に環境教育や国際理解教育）に関連した内容を展開し、充実させる。
- 地域の人材や諸団体と自然環境や歴史的な背景や遺跡等を有効活用しながら互恵的な交流活動を展開し、地域に根ざしたESDの推進を図る。
- 地域や国内、海外のASPネットワークを活用できるよう、ユネスコスクール承認を視野に入れながらESDの推進を図る。

### 2 実践計画

#### ■「守ろう 馬籠の森と林」

—森と林はわたしたちの命— **高学年**

- 地域の特色のひとつである「森林」について、児童がより身近に学びを深めることができる。
- 森林をテーマに各教科等と関連を図り、地球規模の広い視野で学ぶことができる。
- 学習したことをもとに、自分自身にどのように生かすか、他へどのように発信し、どのように意見交換するかなどを考えることで実践意欲の高揚を図ることができる。
- 協力してくれる地域の方々にとっても良さのある、互恵性のある活動が展開できる。
- 学習に携わった方々にESDの啓発ができ、双方向的な効果が期待できる。

#### 実践の評価について

- ESDプログラムの作成ができたか。
- 児童の実践の内容やその成果の発信ができたか。
- 地域の方々との互恵性のある活動の展開ができたか。
- 「地域」の学習に「環境」や「国際理解」について内容をより関連づけ発展させていけたか。

#### 本学習を通して育みたい力

体系的な思考力	「森林」を通して、児童ひとりひとりがもつ問題意識をもとに、様々なテーマを設定することで、多面的・総合的な物の見方を育む。
持続可能な発展に関する価値観	「森林」を環境問題としてとらえさせ、環境を尊重する価値観を育む。また、学習のなかで、人との関わりをもたせ、他者を尊重し、考え方の多様性を尊重する価値観を育む。
代替案の思考力	「森林を守るためには、誰が、どのように守っていかなければならないか」ということについて様々な観点から考え、提案することで、自他の考えを比較し、主張し、批判する力を育む。
情報収集能力 分析能力	取材活動、文献による調査、フィールドワークなど様々な調査方法を用い、それをもとに調査結果をまとめることによって、情報収集・分析能力を育む。
コミュニケーション能力	学校内外への発信を行い、コミュニケーション能力を育む。

活動計画		
学習活動	時間	主な学習内容
森林を知ろう	10	森林探検 ・各教科で学習したことをもとに地域の森林について話し合う。 ・学校の裏山や学校林を探検する。 ・ゲストティーチャーからお話を伺う。
テーマを決めよう	5	興味のあることや情報をもとに課題設定 ・体験したことを個人に発表させ、活動を振り返る。 ・地域の森と林についてもっと調べたいことを話し合う。 ・調べることに話し合う。 ・テーマを決定する。
森や林を調べよう	15	体験活動や取材（本、インターネット、他校からの情報、書物） ・グループ毎課題にそって情報収集。 ・課題に基づき、ゲストティーチャーを招く。 ・体験活動を行う（学校林見学、学校林の下草刈り）。 ・調べたことを簡単にまとめる。
中間発表をしよう	5	これまで調べたことを発表 ・中間発表を行い、意見交換を行う。 ・杉林のよい点→資源活用、地球環境の保全（理想的な環境について） 杉林の問題点→花粉症の発生、森林保存のための労力、金銭の負担増 ・問題を踏まえ、どうするかを考える。 ・地球規模の環境問題について考える。
まとめよう	10	中間発表をもとに調べたことをまとめる ・意見交換をもとに、出てきた課題を整理し、追究活動をする。 ・調べた結果のまとめ方を考える。 ・自分にあつた発表のしかたを選び、発表練習を行う。
発信しよう	5	他校との情報交換会を行う。 （ASPネットワークの活用） ・テレビ会議、ポスター交流、HP等で情報発信し、交流する。

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

ASPネットワークやASPUnivnetやACCUの「学校&みんなのESDプロジェクト事業協力校」事業を活用しESDを推進してきた。

#### ■環境教室(児童対象)およびESD研修会(教員対象)の開催

講師に宮城教育大学の環境教育実践研究センター准教授を招き、馬籠幼稚園園児（年長組）、馬籠小学校児童（全学年）対象の環境教室および日本吉町内の幼稚園、小学校教員対象のESD研修会を行った。

#### ■校外学習(木材加工工場見学および創作活動)の実施

全学年対象の木材加工工場の見学を行った。

#### ■発信・広報活動について

ポスターやパンフレットの作成、掲示を計画中。

#### 実践の成果

- 地域の諸団体と連携し活動を進めてきたことで、児童は高齢者の生きた知恵や技術に直接触れ、世代間の交流を深めることができ、人・自然・地域 のつながりに目を向けることができた。
- 児童の実践の内容やその成果の発信ができた。
- 地域の方々との互恵性のある活動を展開し、ESDの理解の場を設定できた。
- 馬籠幼稚園と合同行事や授業を行い、幼小連携でのESDの推進のあり方を教員間で検討することができた。
- ESD推進に係る教員研修会を開催し、旧本吉町内の学校と地域の特性を生かしたESD推進について研修を深め、ESDに関する理解を高めることができた。

#### 次年度への課題

- 表現力の向上を図りながら、国内および海外の学校との交流を図り、日本の文化の理解や異文化理解に発展させていく。
- 幼稚園との連携を深めるとともに、中学校、高校との連携を進めるための手だてを探る。
- ESDカレンダーを基に教科等の相互の関連を図り、指導の充実を図る。
- 高齢者との交流を軸に隣接する題材を関連づけ、地域の特性を生かし、馬籠小学校としてのESDの推進のあり方を探る。



保護者、地域の方と一緒に学校林の下草刈り



地域の高齢者との交流活動



学習発表会(地域への発信)



馬籠幼稚園との合同授業



木材加工工場の見学

## 生活科・総合的な学習の時間における表現力の育成 —地域を見つめ、調べ、よさを伝え合う活動を通して—

### 1 実践の概要・ねらい

海、山、川、農地、地域の人々、公民館や福祉施設等の地域性を生かし、環境や福祉等を中心とした「地域教育」を実践。

#### 実践の目的

- 人や自然とのふれあいを通して課題を見つけ、粘り強く、主体的に追究しながら、生活に生かしたり、自己の生き方として考えたりすることができる子どもの育成。
- 地域を知り、地域を愛し、地域とともに生きながら、地域のよさを世界に発信できる子どもの育成。
- 活動の成果を国内外のユネスコスクールに発信し、「地域教育」に関する情報を交換し合い、学び合いを深める。

### 2 実践計画

- 大谷っていいな **低学年**
- 発見!大谷の宝 **3学年**
- 人にやさしく、自然にやさしく **4学年**
- 大谷の環境について考えよう **5学年**
- 未来のふるさと、未来の自分 **6学年**

#### 実践の評価について

- ◎学習活動や体験活動の中で作成した作品や記録、自己評価や相互評価の記録などを集積した「ポートフォリオ評価」を活用。
- ◎活動をまとめる段階では、保護者やお世話になった方々を招いて発表会を実施し、児童の学習の成果や意識の程度を把握するとともに、発表の様子を観察・記録する。
- ◎カリキュラムや具体的な活動内容の改善を図るために、児童、保護者を対象としたアンケート調査を実施する。

活動計画	
<b>低学年</b> 大谷っていいな (生活科)	田植えをしよう/幼稚園のともだちとあそぼう/おじいちゃん、おばあちゃんとおそぼう
<b>3学年</b> 発見!大谷の宝 (総合、外国語活動)	大谷の海を調べよう 海に親しもう/大谷の海の生き物を調べよう/大谷の海のよさを考えよう/海の問題について知ろう/ワカメの養殖を体験しよう まちのお年よりと仲良くなる おじいさん、おばあさんに感謝の気持ちを伝えよう/大谷の名人を見つけよう
<b>4学年</b> 人にやさしく、自然にやさしく (総合、外国語活動)	みんなの滝根川 滝根川にふれよう/滝根川のひみつを調べよう/滝根川とくらべよう 障がいについて考えよう キャップハンディ体験をしよう/福祉センターの人たちと交流しよう/障がいや福祉について調べよう/バリアフリーの町づくりについて考えよう
<b>5学年</b> 大谷の環境について考えよう (総合、ジュニア国際塾)	大谷の産業について考えよう 田植え体験(幼稚園、中学校との交流)/ふゆみずたんぼについて調べよう/稲刈り、脱穀体験(お年寄りとの交流)/精米したお米を食べよう(収穫祭)/ふゆみずたんぼについて調べたことを発表しよう 防災マップを作ろう 市の防災計画を調べよう/大谷の防災マップを作ろう/大谷の防災についてまとめよう
<b>6学年</b> 未来のふるさと、未来の自分 (総合、ジュニア国際塾)	探ろうふるさと、考えよう未来の大谷! 見つめよう!ふるさと大谷/調べよう!ふるさと大谷/よさを伝え合おう! わたしたちのふるさと大谷 大谷から世界へ発信! 世界に目を向けよう/地球の環境について調べよう/実践しよう!自分たちができること

### 3 今年度の実践

#### 計画からの追加・変更点

- 人にやさしく、自然にやさしく **4学年**  
「大谷の海と環境について考えよう」の実践を追加。

#### —主な活動内容—

- 大谷の海について知ろう
- 環境の問題を調べよう
- 自分たちができることを考えよう
- 海の問題について調べよう
- 環境の問題について調べたことを伝えよう

#### 実践の成果

- 各学年の地域学習をもとにした年間指導計画が作成できた。
- 体験活動を効果的に取り入れた単元構想からの授業作りができた。
- 多様なまとめ方や表現方法を取り入れての授業を継続したことで、児童の発表力が向上した。
- 大谷小学校の地域教育の取組を保護者や地域にアピールし、理解や協力を得ることができた。

#### 次年度への課題

- 各教科との関連や小中の連携を明確に表した大谷小学校ESDカレンダーを作成していきたい。
- 児童の思考力、判断力、表現力を高めるための学習過程の在り方や、言語活動の充実を図るための手立てを追究し、授業実践から検証・確立していく。
- 体験活動場所までの交通手段や経費について、どのようにするか検討していく必要がある。



ワカメ種はさみ体験の様子(3学年:発見!大谷の宝)



東北大学名誉教授による水産業についての講義(3学年:発見!大谷の宝)



自分たちができる環境保全策について学び合いの実践(4学年:人にやさしく、自然にやさしく)



児童と保護者を対象に、NPOによる環境保全を考えた林業の取組(皮むき間伐)の講義。(6学年:未来のふるさと、未来の自分)

幼小中の連携をもとに行った田植え、稲刈りの合同体験活動